

ブルキナ・ファソ共和国

協力隊員要請背景 調査団報告書

平成 11 年 3 月

JICA LIBRARY



J 1151679 [6]

青年海外協力隊事務局

ブルキナ・ファソ共和国 協力隊要請背景調査団報告書

平成 11 年 3 月

青年海外協



青派三
JR
99-05

ブルキナ・ファソ共和国

**協力隊員要請背景
調査団報告書**

平成 11 年 3 月

青年海外協力隊事務局



1151679[6]



ワガドゥグ市内

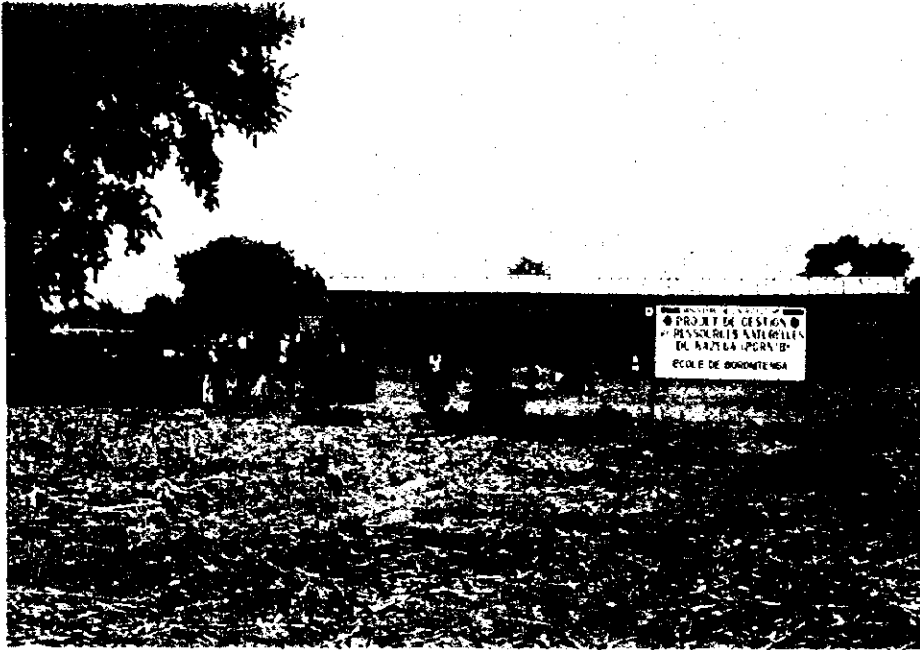
官庁街



街中 バイクが多い



市内の屋台



バゼガ地域総合開発
プロジェクト

援助で建設された小学校
小学校建設にあたって
は井戸、教員宿舎の設置
をパッケージとしている



村の様子
(首都から80km)



Foret
Villegoise
村人による森林保護地



ナグバングル苗畑

無償資金協力により
リハビリされる案件対象

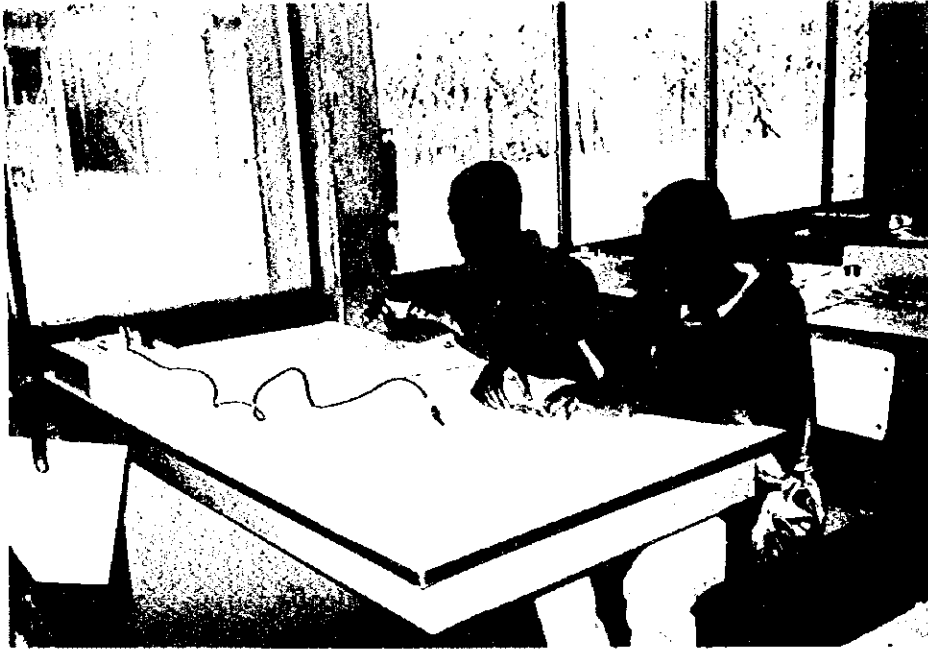
給水塔



水撤器

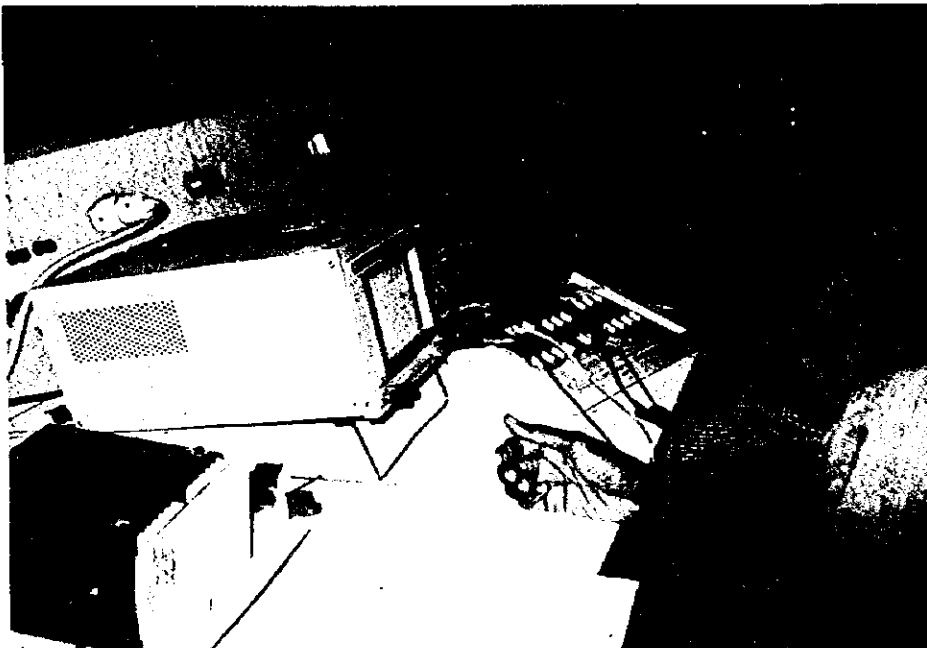


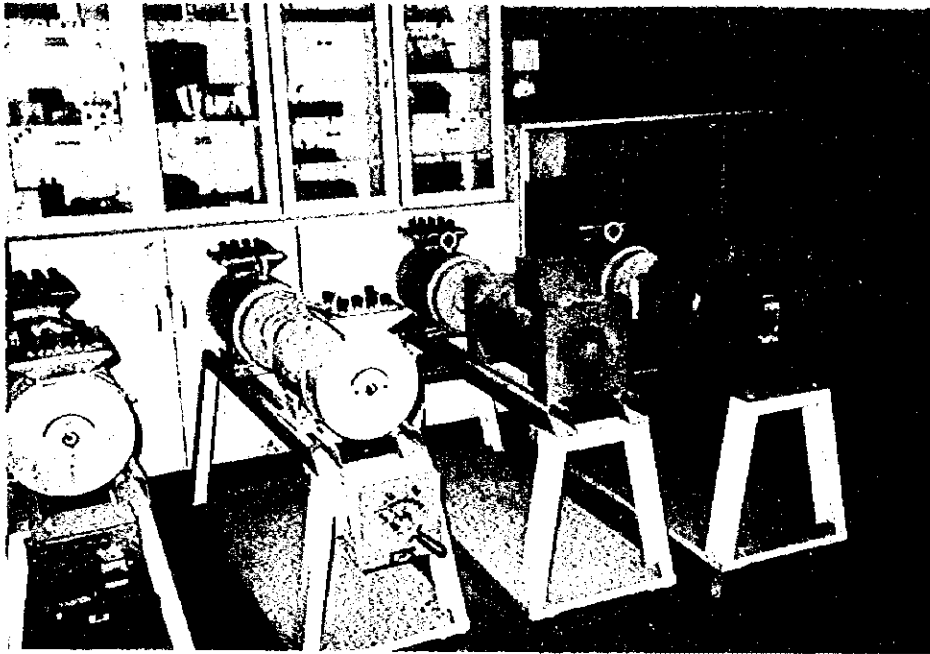
老朽化した苗木生産
研修室



ワガドゥグ工業高校

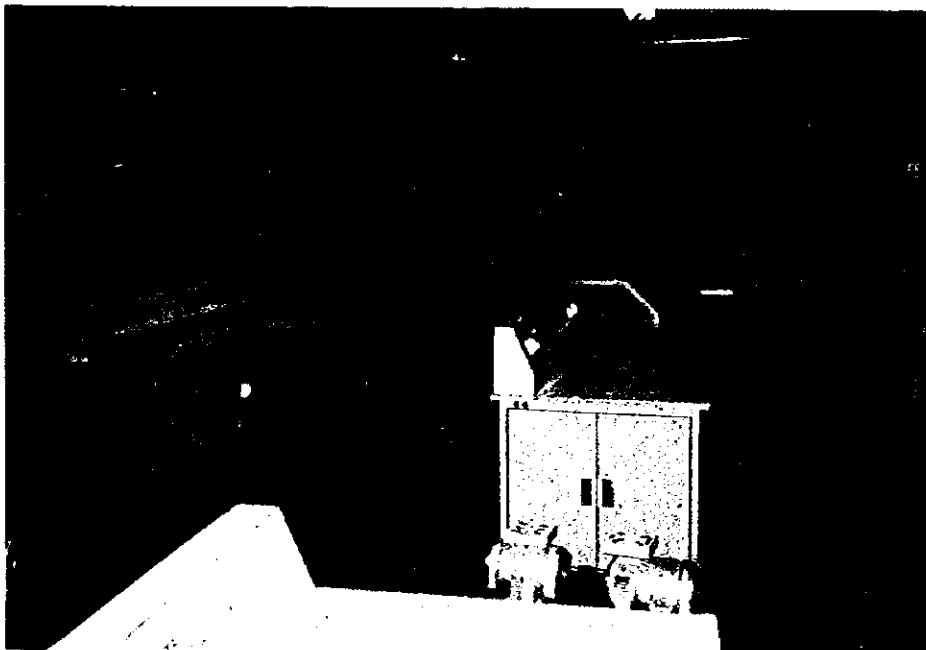
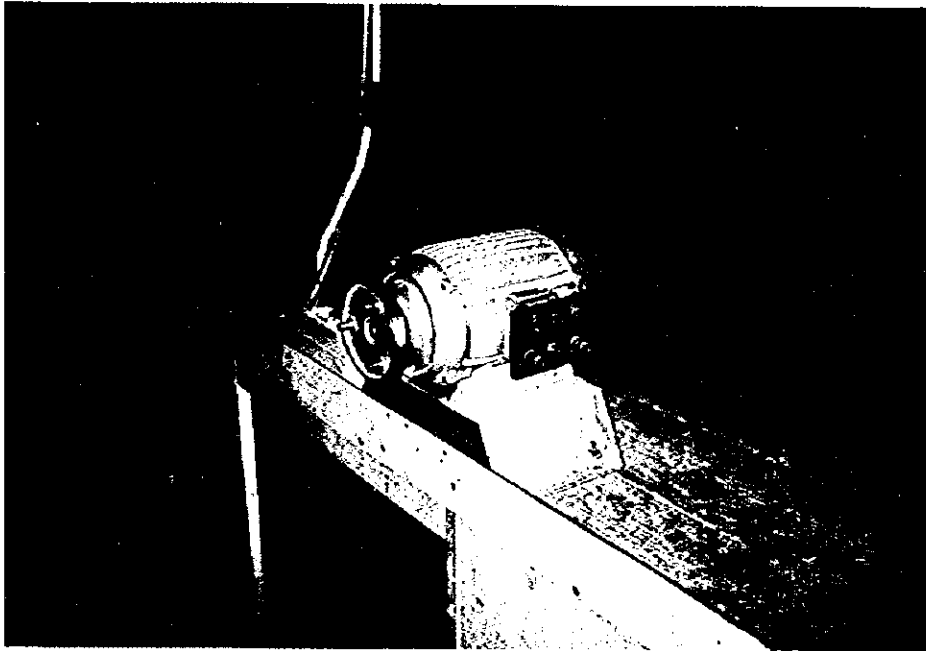
電子機器実習室

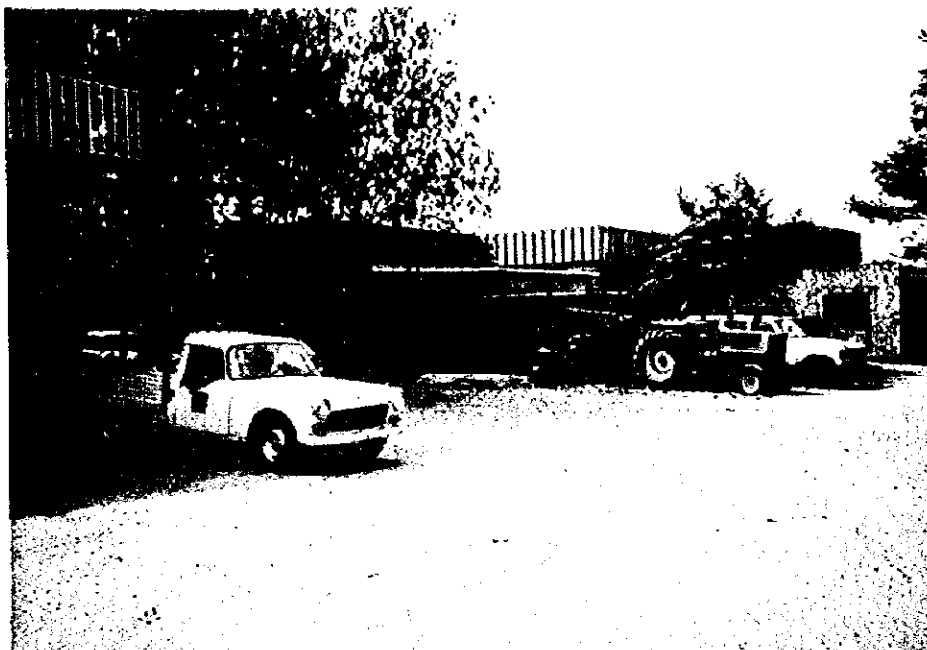




ワガドゥグ工業高校

電子機器実習室



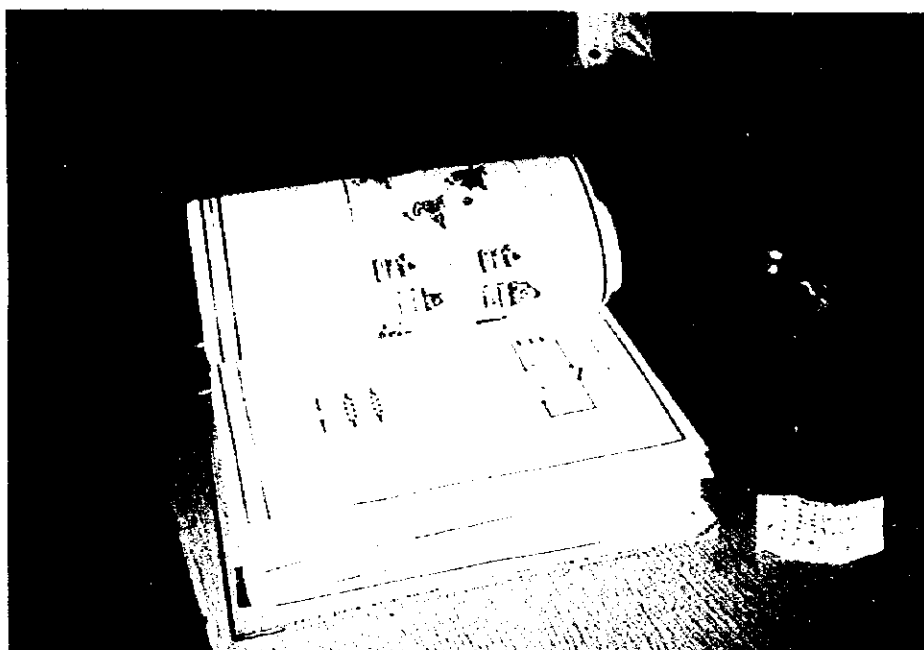


職業訓練センター

センターは59年に設立されたが、当「電子機器科」は91年に新設



授業模様



9ヵ月講座「理論」教材

ストリートチルドレン
保護センター

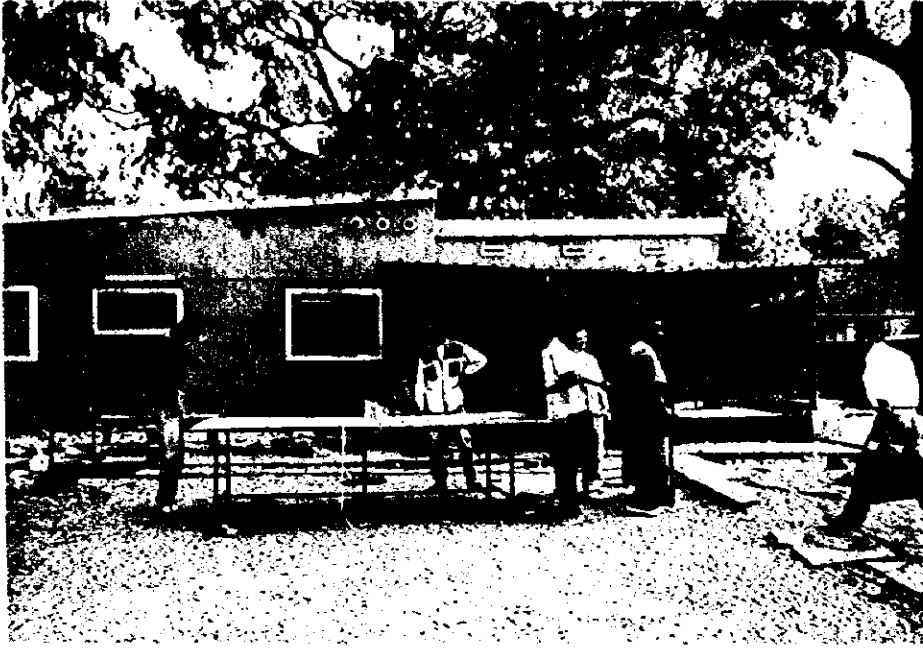


センターで実施される
木工の職業訓練



ストリートチルドレン
の作品

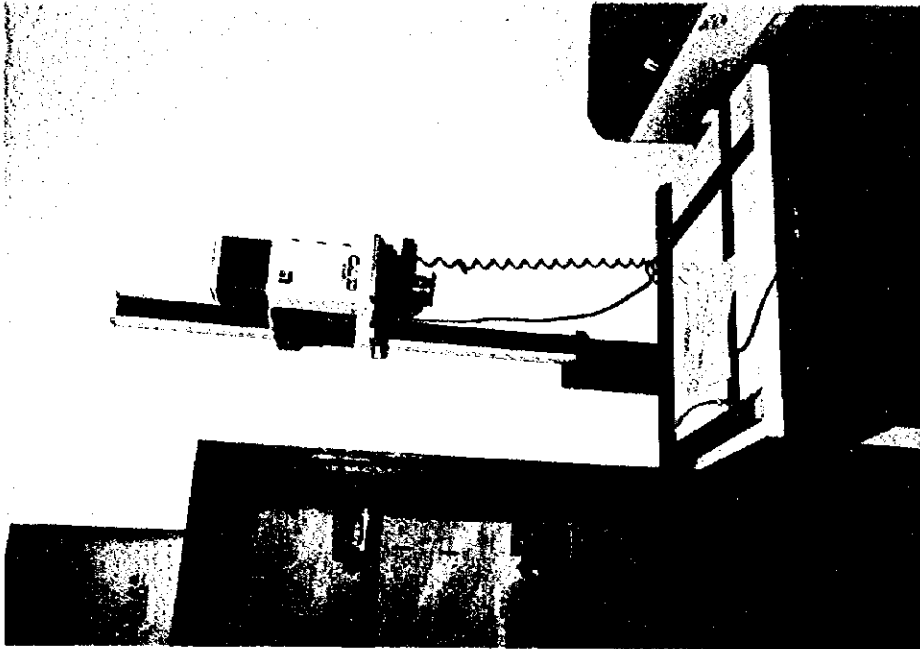
ストリートチルドレン
保護センター



センターの外観

(毎日平均30名の
ストリートチルドレンが
訪れる)





青年スポーツ省
視聴覚室

全国の青少年のスポーツ
活動の広報を行っている

写真拡大器

(G70

FUJIMOTO)



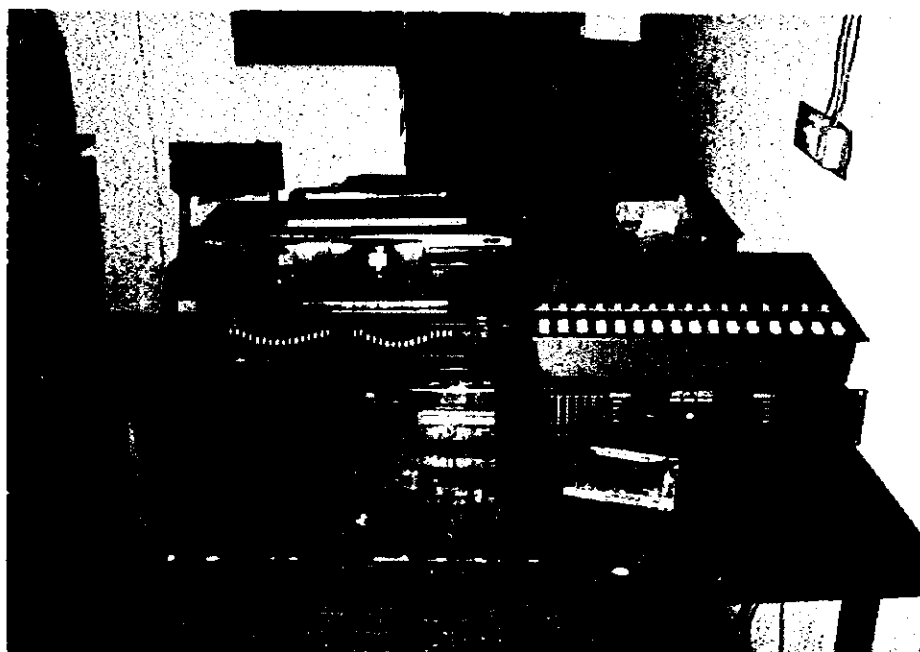
ビデオカメラ (VHS)

4器 (VS17Grundig

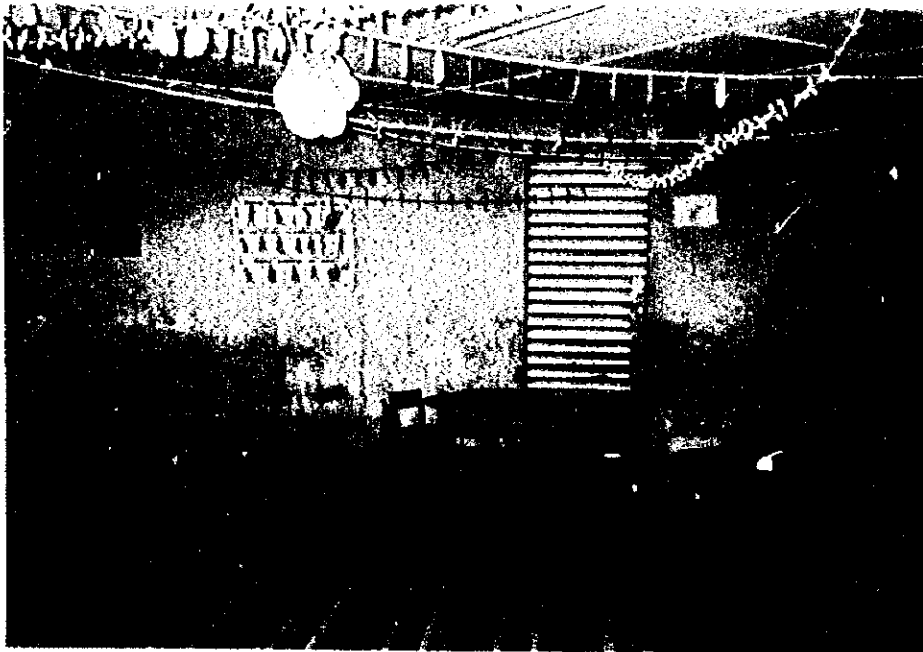
M25, M1000,

NVS85

PANASONIC)



音響装置一式



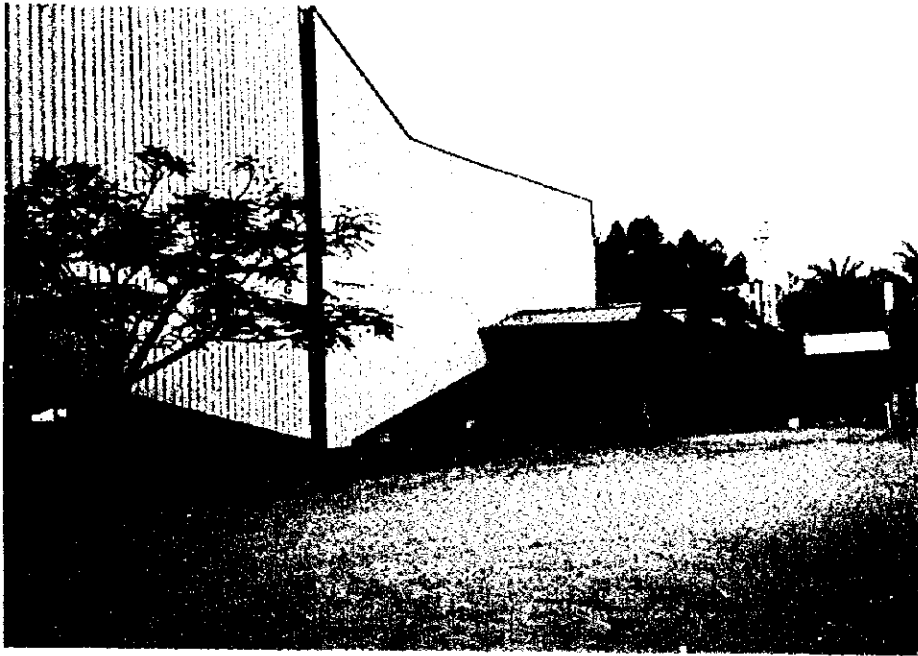
市立公立幼稚園
(SID ZIGLOGO)

イタリアの援助で設立
された比較的恵まれた
幼稚園
(園児81名、教諭5名)



年長クラスの教材



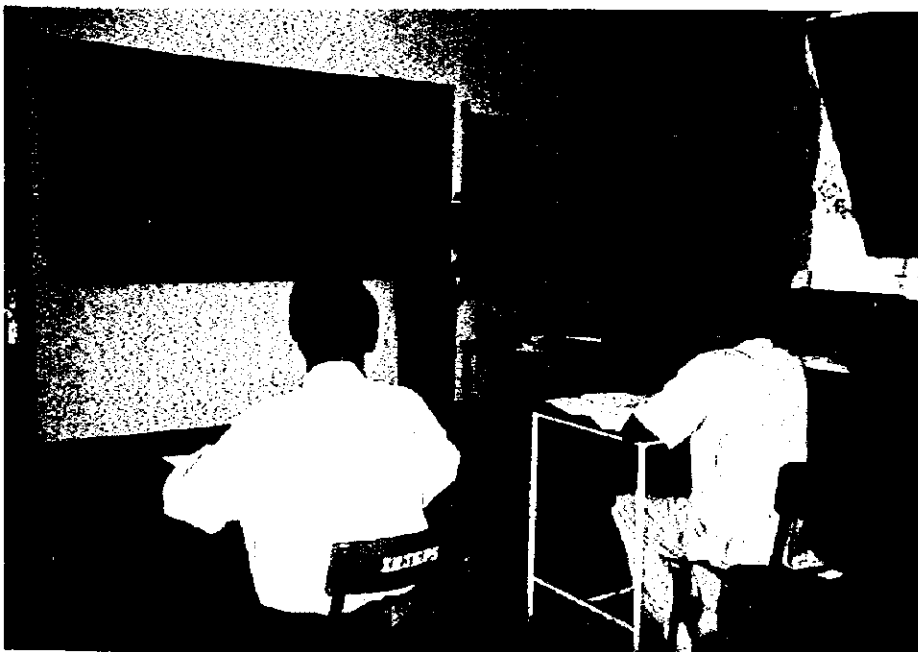


国立青年体育
スポーツ学院

中学高校の体育教師と
「青年の家」運営者を
養成する3年制の
短期大学

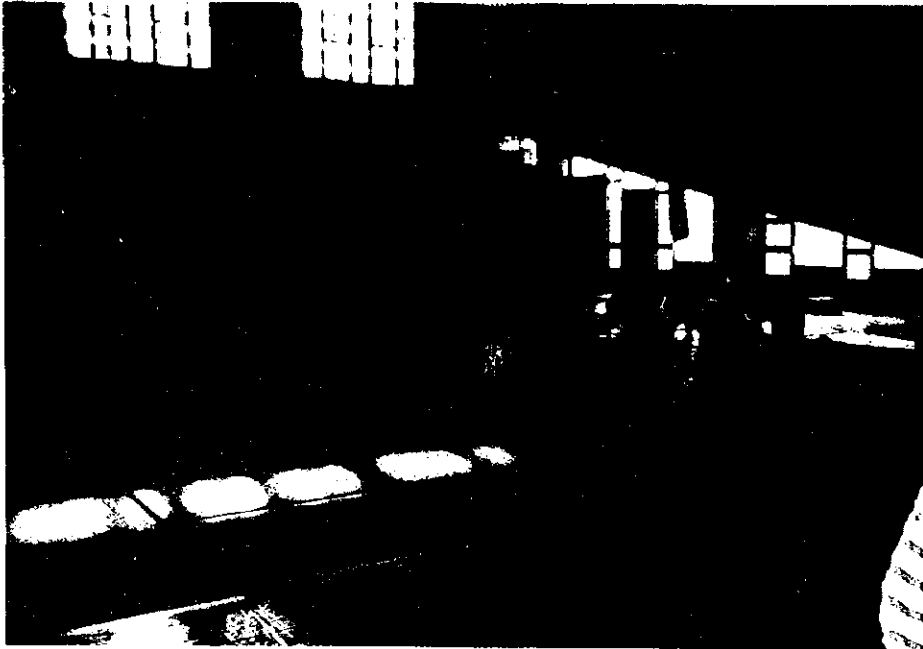


校庭



保健体育理論の授業

国立青年体育
スポーツ学院



トレーニングの様様



目 次

1	調査団派遣の背景と目的	
1-1	調査団派遣の経緯と目的	1
1-2	調査内容	1
1-3	調査団の構成	1
1-4	調査団日程	2
1-5	調査団面談者リスト	4
2	要請開拓調査結果	
2-1	調査要約	7
2-2	総括報告・調査結果要約一覧	8
2-3	総括報告・調査結果要約一覧（仏語訳）	11
2-4	受入希望調査票	15
3	協力隊員派遣計画	
3-1	協力隊活動のポテンシャル	23
3-2	重点分野	23
3-3	事業展開	25
4	調査概要	
4-1	省庁別協議内容	26
4-2	他国援助機関の動向	38
4-3	事務所関連	41
4-4	生活環境	42

1 調査団の背景と目的

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ブルキナ・ファソ国では、87年にクーデターにより政権を掌握したコンパオレ人民戦線議長が、共産主義を放棄し、民主化を推進した。91年6月新憲法採択、同年12月大統領直接選挙実施、92年5月国民議会選挙実施、複数政党制導入という民主化プロセスを経て、外交的にも96年にフランス・アフリカ首脳会議を開催するなど内外に政治的安定を維持している。しかし社会経済的には、人間開発指数174カ国中172位の最貧国であり、成人識字率はサハラ以南アフリカの中で最も低い18.7%、出生時平均寿命はサハラ南アフリカ諸国平均を下回る46.4才と、低い数値を示している。

このような状況下、同国の経済、社会発展のための人材育成に貢献するものとして「ブ」国より要請があり、97年7月に新規派遣国事前調査団が派遣され、先方政府に対し協力隊事業の仕組を説明し、交換公文の内容について説明を行った。

その後、98年10月6日にウエドラオグ外務大臣と在象牙能下臨時代理大使との間で交換公文が締結された。各要請内容の詳細を確認し、協力隊活動開始に必要な情報を収集するために、本調査団が派遣された。

1-2 調査内容

- (1) 「ブ」側受入機関と今後の業務計画につき協議する。
 - ① 隊員受入機関である外務省と今後の派遣計画につき協議する。
 - ② 各省庁と今後要請の可能性がある職種につき協議する。
- (2) 各要請につき、要請背景調査を行い、募集に必要な情報収集を行う。
 - ① 業務内容、職場環境、先方負担事項につき調査する。
- (3) 協力隊活動開始に必要な情報収集を行う。
 - ① 他国援助機関、他機関専門家より協力活動の現状、問題点を聴衆する。
 - ② 調整員事務所開設に必要な不動産、安全管理情報を得る。
 - ③ 現地での語学訓練先、講師の確保、講師招へいの可能性を探る。

1-3 調査団の構成

1 団長／総括	国際協力事業団象牙海岸共和国事務所長	阿部憲子
2 団員／要請背景調査	国際協力事業団ニジェール駐在員事務所長	堀内好夫
3 団員／派遣計画	国際協力事業団協力隊事務局派遣第三課職員	野々山裕子
4 団員／通訳	財団法人日本国際協力センター研修管理部	石川正志

1-4 調査団日程

ブルキナファソ共和国隊員派遣要請背景調査団日程

平成10年1月15日

	月日(曜)	日程	宿泊先
1	1月9日(土)	東京→パリ(AF275)	パリ
2	1月10日(日)	パリ→ワガドゥグ(AF734)	ワガドゥグ
3	1月11日(月)	10:00 外務省国際協力総局長表敬 11:30 中等高等教育科学研究省次官表敬 16:00 AFVP表敬 17:00 青年スポーツ省大臣表敬	ワガドゥグ
4	1月12日(火)	08:00 農業省次官表敬 09:00 UNDP表敬 09:30 保健省次官表敬 11:00 環境水利省次官表敬 14:00 Peace Corps意見交換 15:30 社会活動家族省次官表敬 16:30 (中高等教育科学研究省管轄)工業高校視察・協議	ワガドゥグ
5	1月13日(水)	08:00 農業省村落植林推進計画局協議 09:30 動物資源省次官表敬 10:30 動物資源省普及技術移転局協議 13:00 (環境水利省管轄)国立林業種子センター視察・協議 15:30 (青年スポーツ省管轄)国立青年スポーツ学院視察・協議 16:30 (青年スポーツ省管轄)青年の家視察・協議	ワガドゥグ
6	1月14日(木)	08:00 農業省農業普及総局協議 09:30 (環境水利省管轄)スルー川流域整備公社技術部長協議 11:00 女性地位向上省次官表敬 15:30 保健省保健総局長協議 17:00 司法省次官表敬	ワガドゥグ
7	1月15日(金)	08:00 (社会活動家族省管轄)児童福祉局長協議・幼稚園視察 09:30 雇用労働社会保障省次官表敬 10:30 (社会活動家族省管轄)ストリートチルドレン保護センター視察・協議 11:45 (労働雇用社会保障管轄)職業訓練センター視察・協議 15:30 総括協議(於外務省)	ワガドゥグ
8	1月16日(土)	09:00 (農業省管轄)農村開発プロジェクト視察 15:00 (環境水利省)地方苗畑視察・協議	ワガドゥグ

9	1月17日(日)	資料整理・生活環境調査	ワガドゥグ
10	1月18日(月)	09:30 外務省最終打ち合せ 移動(RK810 15:55発)ワガドゥグ→アビジャン	アビジャン
11	1月19日(火)	JICA事務所報告、在象牙海岸共和国日本大使館報告 23:05 移動(野々山 AF703)アビジャン→パリ	パリ
12	1月20日(水)	07:05 移動(堀内所長 RK839)アビジャン→パリ 19:35 移動(野々山 JL406)パリ→東京	機内泊
13	1月21日(木)	帰国	

1-5 調査団面談者リスト

1月11日

1 外務省

Ms. Bernadette Sanou	協力局長	Directeur Général, Coopération Générale
Mr. François Oubida	二国間協力局長	Directeur Coopération Bilatérale
Mr. Hamadi Boureima	アジア中東課長	Chef de Service Asie et Moyen Orient
Ms. Safietou Sanne	アジア中東担当	Service Asie et Moyen Orient (全行程同行)

2 青年スポーツ省

Mr. Joseph Tiendrebeogo	大臣	Ministre
Mr. Bognini Edouard	次官	Secrétaire Général
Mr. Djibril Ye	調査計画局長	Directeur des Etudes Planification

3 AFVP (フランスボランティア協会)

Mr. François Lecarpentier	地域代表	Délégué Régional
Mr. Ouedraogo Hiffolyte	事業担当	Chargé des opérations

4 中高等科学研究省

Mr. Mamadou Sissoko	次官	Secrétairé Général
Mr. Malick Traore	中等技術教育局長	DGESTP
Ms. Diallo Isabelle	調査計画担当	Département des Etudes Planification
Mr. Felix Compaoré	調査計画担当	Département des Etudes Planification

1月12日

1 農業省

Mr. Bikienga Issa Martian	次官	Secrétaire Général
---------------------------	----	--------------------

2 UNDP

Ms. Diene Keita-Djermakoye	所長代理	Représentant Résident Adjoint
Ms. Tamboula Alizatta	プログラム担当	Chargé de Programme
Mr. Nlom Pedro-Ayauvi	UNV担当	Chargé de Programme UNV

3 保健省

Mr. Mathias Some	次官	Secrétaire Général
------------------	----	--------------------

4 環境水利省

Mr. Martin Kabore	次官	Secrétaire Général
Mr. Amidou Karama	調査計画局長	Directeur des Etudes et Planification
Mr. Lassino Traore	調査計画担当	Direction des Etudes et Planification

5 米軍平和部隊

Ms. Jennifer Taylor	所長代理	Directrice Adjointe
Ms. Claude Millogo	公衆衛生部長	Directrice Adjointe pour la Santé Publique

6 社会活動家族省

Mr. Lambert Yauolofo	次官	Secrétaire Général
Mr. Bamob Nichel	研究計画局長	Directeur, Dépt. d'Etude et Plannification
Ms. Sanou Madeleine	研究計画課長	Chef de Service, DEP
Mr. Tapsoba Alexandre	社会復帰局長	Directeur de l'Insertion Sociale
Ms. Zaiaa Patricia	児童局長	Directrice de l'Enfance

1月13日

1 環境水利省村落植林推進計画局

Mr. Kimsé OUEDRAOGO	森林整備課長	Chef de Service de l'Aménagement Forestier
Mr. Eugene COMPAORE	村落林業課長	Chef de Service Foresterie Villagesoise
Mr. Bereoudougou Honore	広報課担当	Service Animation Communication
Mr. Joachim OUEDRAOGO	村落林業森林整備局長	Direction de la Foresterie Villageoise et de l'Aménagement Forestier

2 動物資源省

Mr. Marcel NAGALO	次官	Secrétaire Général
Ms. GNOUMOU HAOUA	普及技術移転局長	Directrice Vulgarisation et Transferts Technologies
Ms. KOTE Korotimi	広報課長	Chef de Service de la Communication

3 国立林業種子センター協議

Mr. OUEDRAOGO G. Lambert	技術部長	Directeur Technique
Mr. Sibidou SINA	応用研究課長	Chef Division Recherche Appliquée
Mr. Adama DIALLO	林業分類計画担当	Programme Sylviculture Taxonomie
Ms. OUEDRAOGO Sary Haoua	教育普及課長	Chef Division Formation Vulgarisation
Mr. Sie KAMBOU	育種計画担当	Programme Amélioratif Génétique
Mr. Ky Kilea Jean Marie	林業普及担当	Sylviculture / Vulgarisation
Mr. BALIMA Raymond	生産種子普及課長	Chef Division Production et Promotion Semenciere

4 国立青年体育スポーツ学院 (青年スポーツ省管轄)

Mr. TANKOANO Vincent	学院長	Directeur Général
Mr. BELEMSIGRI Vincent de Paul	青年組織局長	Directeur des Organisations de Jeunesse
Mr. GNANOU Lassina	研究生涯教育局長	Directeur des Etudes et de Formation Continue
Mr. SANFO Souleymane	財務局長	Directeur Financier
Mr. SAMADOULOUGOU Mamadou	管理官	Gestionnaire

1月14日

1 農業省農業普及総局

Mr. OUEDRAOGO Hamado Joseph	普及研究開発課長	Chef de Service Vulgarisation et Recherche - Développement
Mr. WINKOUN Jean-Yves	コンピューター技師	Informaticien
Mr. TAMINI Josue	モニタリング・評価室	Bureau Suivi Evaluation
Mr. OUEDRAOGO Leonard	プログラミング室	Bureau Programmation
Mr. BONKOUNGOU Robert	実地教育課	Chef Service Formation Opérationnelle

2 スルー川流域整備公社

Mr. Patrice GUISSOU	技術部長	Directeur Technique
---------------------	------	---------------------

3 女性地位向上省

Mr. SAWADOGO Koanda Adama	総務財務局長	Directeur des Affaires Administratives et Financières
Ms. SANOU B. Henriette	総務財務局	Direction des Affaires Administratives et Financières
Mr. TOE Joseph	調査計画局長	Directeur des Etudes et Plannification

4 保健省

Mr. OUEDRAOGO Boureima	保健総局長	Directeur General de la Sante
------------------------	-------	-------------------------------

4 保健省

Mr. OUEDRAOGO Boureima 保健総局長 Directeur Général de la Santé

5 司法省

Ms. SAWADOGO Salamata 次官 Secrétaire Général
Mr. Kondé Podé 司法官、刑務社会復帰局 Magistrat, Direction des Affaires Pénitentiaires et de l'Insertion Sociale

Mr. VOHO MEDARD 司法官、刑務社会復帰局 Magistrat, Direction des Affaires Pénitentiaires et de l'Insertion Sociale

1月15日

1 私立幼稚園

Ms. Kabré Ambroisine 園長 Directrice
Ms. Yaméogo Rentou 教諭、副園長 Animatrice / Adjointe
Mr. Toé Jean Martin 児童局 Direction de l'Enfance
Ms. Tapoda Elisé 児童局、研修生 Stagiaire, Direction de l'Enfance
Ms. OUEDRAOGO Sylvie 児童局 Direction de l'Enfance
Ms. Kinda Anatou Kadiogo 地方局 Direction Provinciale Kadiogo

2 労働雇用社会保障省

Mr. OUEDRAOGO Karem 次官 Secrétaire Général
Mr. OUEDRAOGO Geneviève 調査計画局 Direction des Etudes Planification
Mr. SAGNOU Amadou 調査計画局 Direction des Etudes Planification
Mr. GANOU Gnimby 職業訓練校長 Mr. OUEDRAOGO Mr. Directeur du Centre d'Evaluation et de Formation Professionnelle

Mr. OUEDRAOGO Boukaré 職業訓練校講師 Centre d'Evaluation et de Formation Professionnelle
Mr. SAMADOU LOUGOU Mamadou 職業訓練校管理官 Gestionnaire

3 ストリートチルドレン保護センター (Projet Action Educative Milieu Ouvert) (社会活動家族省管轄)

Mr. TAPSOBA Alexandre 社会復帰局長 Directeur de l'Insertion Sociale
Mr. KABONÉ Jean Claude AEMOプロジェクトマネージャ Chef du Projet AEMO
Mr. SINARE Marice Joseph 社会復帰局、社会復帰局計画 Service Programme d'Insertion, Direction de l'Insertion Sociale

Mr. BAMBA Awa 社会復帰局、社会復帰局計画 Service Programme d'Insertion, Direction de l'Insertion Sociale

4 外務省 (総括協議)

Mr. François Oubida 二国間協力局 Directeur Coopération Bilatérale
Mr. Hamadi Boureima 外務省アジア中東課長 Chef de Service Asie et Moyen Orient
Ms. Safietou Sanne 外務省アジア中東担当 Service Asie et Moyen Orient

1 日本人関係者

石田 達誠 在象牙海岸共和国日本大使館三等書記官
井上 茂 環境計画専門家
佐藤 康晴 福渡建築コンサルタント

2 要請開拓調査結果

2-1 調査要約

1. 当調査団は、平成11年1月10日から18日までの9日間に亘りブルキナ・ファソ国に滞在し、「ブ」国外務省作成の協議日程に基づいて11省庁・10関係機関を訪問した。数多くの関係者との協議を通じて、先方側の協力隊に対する関心の高さ、隊員派遣の早期実現への期待が強く感じられた。
2. 協議した各省庁及び関係機関においては、当方より協力隊活動の概要、要請手続、隊員派遣までのプロセス、日本側の負担すべきこと及び先方政府の負担すべきこと等について説明を行った。既に要請書を提出している機関については、その背景、妥当性についてヒアリングを行いつつ要請内容を確認した。また、隊員要請を検討中の機関に対しては、具体的要請職種や配属先の現状等を確認し、必要な手続のコンサルテーションを行った。
3. 今回の調査結果は別添一覧表のとおりで、17件の要請が出され、その内8件を次期春募集の対象とすることが妥当と判断した。更に、今後要請が見込まれるものは8件あった。
4. 調査団滞在中には地方調査を実施できなかったが、関係機関との協議を通じて隊員活動の地方展開の可能性が高いことを確認した。地方展開については、調整員の派遣後に現地での詳細な調査を行った上で進めることが妥当と思われる。従って、本調査結果は、初代隊員として先ず首都ワガドゥグ市内の配属することを主眼に要請を絞り込んだものである。
5. 要請一覧表の中で、まだ公式にブルーシートが先方外務省に接到していない案件については、同省を通じて関係機関への督促を依頼した。
6. 調査団は「ブ」側関係省庁のみならず、在「ブ」他国ボランティア機関（UNV、USPCs、AFVP）も訪問し、活動状況及び実施体制、ボランティアの処遇等について意見交換を行った。また、隊員の海外手当設定に資する市内における各種の物価調査を実施するとともに、治安対策等に係る情報収集を行った。
7. 最後に、訪問先関係省庁の行き届いた対応は勿論のこと、特に外務省は当調査団のほぼ全日程にMme.Sanneアジア担当官をアテンド役として配置し、極めてタイトな日程にも関わらず、予定どおり当調査団所期の目的が達成できるよう多大な配慮をいただいた。「ブ」外務省及び同女史の親身な対応ぶりについて特筆し、深く感謝申し上げたい。

2-2 総括報告・調査結果要約一覧

外務大臣殿

JICA調査団総括報告

- 1 JICAは1998年10月6日に締結された青年海外協力隊派遣取決（E/N）に基づき、1999年1月10日から1月18日の間、協力隊派遣要請背景調査団をブルキナファソ国に派遣した。
- 2 調査団はこの間11省庁、10関係機関を訪問し、要請背景調査を実施した。この結果、調査団として別紙（ANNEX）のとおり、次期募集（4月15日から5月31日）にかかる要請、10月以降の新調整員の派遣を待って引き続き調査を実施する要請、及び協力隊員の活動として困難な要請があることを明記し、ブルキナファソ国外務省、JICA本部及び在象牙海岸共和国日本大使館に報告する。
- 3 募集の結果、確保された候補者は、日本国内での約3ヵ月間の訓練の後、2000年4月上旬以降に派遣されることとなる。
- 4 調査結果要約一覧表中、調査結果に○印が付いた案件につき、貴国政府の公式要請として、可及的速やかに在象牙海岸共和国日本大使館宛公文書をもって要請するよう対応願いたい。なお、併せてブルーシート未着分については、外務省から関係機関と連絡をとり、公文書に添付して頂くよう願いたい。
- 5 最後に調査団は、ブルキナファソ国滞在中にブルキナファソ側関係者、特に外務省から受けた数々の便宜供与に対し、深く感謝申し上げます。

1999年1月15日
堀内好夫
JICA調査団長

調査結果要約一覧

平成10年1月15日

要請省庁	要請機関	職種	調査結果	公式	備考
1 中高等科学研究所	工業高校	電子機器	○	未	
2 中高等科学研究所	工業高校	電気機器	○	未	
3 青年スポーツ省	国立青年体育スポーツ学院	柔道	○	済み	
4 青年スポーツ省	国立青年体育スポーツ学院	バレーボール	○	済み	
5 青年スポーツ省	調査計画局視聴覚課	視聴覚教育	○	済み	
6 青少年スポーツ省	青年局	青少年活動	△	済み	部内協議要(本局と現場)
7 社会活動家族省	ストリートチルドレン保護センター	ノンジャンルワーカー	○	済み	
8 社会活動家族省	幼稚園局	幼稚園教諭	○	済み	
9 社会活動家族省	家族局	家政	△	済み	地方(現地調査要)
10 環境水利省	バグレ事務所	稲作	△	済み	地方(現地調査要)
11 環境水利省	SM-流域整備公社	農業機械	△	未	地方(現地調査要)
12 環境水利省	SM-流域整備公社	稲作	△	未	地方(現地調査要)
13 環境水利省	国立林業種子センター	生物測定学	×	済み	専門家レベルの内容(研究)
14 環境水利省	水利総局	水利施設施工	×	済み	他のスキームの内容
15 動物資源省	普及局専門技術課	家畜飼育	×	済み	専門家レベルの内容(普及統括)
16 動物資源省	普及局	視聴覚教育	×	済み	専門家レベルの内容
17 労働雇用社会保障省	職業訓練センター	電子機器	○	未	

(○：公式化、△：継続協議、×：要請取下げ)

今後見込まれる要請

	要請省庁	要請機関	職種	調査結果	フルシート	備考
1	法務省	刑務所社会復帰センター	金属加工	—	—	
2	法務省	刑務所社会復帰センター	木工	—	—	
3	法務省	刑務所社会復帰センター	家政	—	—	
4	法務省	刑務所社会復帰センター	野菜	—	—	
5	農業省	普及局地方支部	村落開発普及員	—	—	
6	農業省	普及局地方支部	野菜	—	—	
7	保健省	地方病院	医療機器	—	—	
8	保健省	NGO 栄養不良児施設	栄養士	—	—	
9	女性地位向上省	女性の家	家政	—	—	
10	環境水利省	植林局	植林	—	—	
11	社会活動家族省	NGO ストリートチルドレン保護センター		—	—	

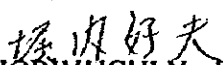
2 - 3 総括報告・調査結果要約一覧 (仏語訳)

Monsieur le Ministre des Affaires Etrangères

Rapport de synthèse par la mission de JICA

1. Conformément à l'Echange de Notes entre le Burkina Faso et le Japon sur l'envoi des volontaires japonais pour la coopération à l'étranger, conclu le 6 octobre 1998, JICA a envoyé au Burkina Faso, du 10 janvier au 18 janvier 1999, une mission d'étude sur le contexte de la demande des volontaires japonais.
2. Pendant son séjour au pays, la mission a visité onze ministères et neuf organismes concernés pour étudier le contexte de la demande. A l'issue de cette étude, la mission a formulé une liste qui montre la situation des demandes qui feront l'objet du prochain recrutement (du 15 avril au 31 mai 1999), celles qui nécessitent une étude plus approfondie par le nouveau coordinateur à partir du mois d'octobre 1999 et celles pour lesquelles des volontaires auront des difficultés pour mener ces activités. Ces résultats seront communiqués au Ministère des Affaires Etrangères du Burkina Faso, au siège de la JICA et à l'Ambassade du Japon en Côte d'Ivoire.
3. Après les résultats du recrutement, les candidats retenus suivront, au Japon, pendant environ trois mois, un stage de formation et seront envoyés sur place vers le début avril 2000.
4. La mission demande au gouvernement du Burkina Faso de présenter, auprès de l'Ambassade du Japon en Côte d'Ivoire le plus tôt possible, les demandes marquées par O dans la liste ci-jointe (liste résumant les résultats de l'étude) avec une note verbale. En ce qui concerne les fiches bleues (demande du volontaire japonais) qui ne sont pas encore remises, nous prions le Ministère des Affaires Etrangères burkinabé d'inviter les services concernés à les présenter et de les joindre à la note ci-dessus.
5. Enfin, la mission exprime ses remerciements pour les facilités offertes, pendant son séjour au Burkina Faso, par les responsables burkinabés concernés, surtout par le Ministère des Affaires Etrangères.

le 15 janvier 1999


Mr. HORIYUCHI Yoshiro
Chef de la Mission de JICA

Liste résumant les résultats de l'étude

Ministères demandeurs	Organismes demandeurs	Classification des postes	Résultats de l'étude	Réception des fiches bleues	Observation
1 Ministère des enseignements secondaire, supérieur et de la recherche scientifique	Lycée technique	Instruments électroniques	○	Pas	
2 Ministère des enseignements secondaire, supérieur et de la recherche scientifique	Lycée technique	Instruments électriques	○	Pas	
3 Ministère de la jeunesse et des sports	Institut national de la jeunesse et des sports	Judo	○	Reçue	
4 Ministère de la jeunesse et des sports	Institut national de la jeunesse et des sports	Volley-ball	○	Reçue	
5 Ministère de la jeunesse et des sports	Direction des études et de la planification. Service audio-visuel	Formation audio-visuel	○	Reçue	
6 Ministère de la jeunesse et des sports	Direction de la jeunesse	Activités pour la jeunesse	△	Reçue	discussion interne nécessaire (direction centrale et service local)
7 Ministère de l'action sociale et de la famille	Direction de l'action sociale	Assistant social	○	Reçue	
8 Ministère de l'action sociale et de la famille	Direction de l'enfance	Enseignant à l'école maternelle	○	Reçue	

○ : officialisé △ : à discuter encore × : demande rejetée

Ministères demandeurs	Organismes demandeurs	Classification des postes	Résultats de l'étude	Réception des fiches bleues	Observation
9 Ministère de l'action sociale et de la famille	Direction de la famille	Arts ménagers	△	Reçue	en province (étude sur le terrain nécessaire)
10 Ministère de l'environnement et de l'eau	Maîtrise d'ouvrage de Bagré	Riziculture	△	Reçue	en province (étude sur le terrain nécessaire)
11 Ministère de l'environnement et de l'eau	Autorité de mise en valeur de la vallée du Sourou	Machinisme agricole	△	Pas	en province (étude sur le terrain nécessaire)
12 Ministère de l'environnement et de l'eau	Autorité de mise en valeur de la vallée du Sourou	Riziculture	△	Pas	en province (étude sur le terrain nécessaire)
13 Ministère de l'environnement et de l'eau	Centre national de semences forestiers	Biométrie	×	Reçue	niveau de l'expert (recherches)
14 Ministère de l'environnement et de l'eau	Direction générale de l'hydraulique	Ouvrages hydrauliques	×	Reçue	sous d'autres formes de coopération
15 Ministère des ressources animales	Direction de la vulgarisation Service de techniques spécialisées	Elevage	×	Reçue	niveau de l'expert (à coiffer les activités de la vulgarisation)
16 Ministère des ressources animales	Direction de la vulgarisation	Formation audio-visuel	×	Reçue	niveau de l'expert
17 Ministère de l'emploi, du travail et de la sécurité sociale	Centre d'évaluation et de formation professionnelle	Instruments électroniques	○	Pas	

○ : officialisé △ : à discuter encore × : demande rejetée

Demandes qui pourraient être adressées dans le future

Ministères demandeurs	Organismes demandeurs	Classification des postes	Résultats de l'étude	Réception des fiches bleues	Observation
1 Ministère de la justice	Centre de l'insertion sociale dans la prison	Menuiserie métallique	—	—	
2 Ministère de la justice	Centre de l'insertion sociale dans la prison	Menuiserie en bois	—	—	
3 Ministère de la justice	Centre de l'insertion sociale dans la prison	Arts ménagers	—	—	
4 Ministère de la justice	Centre de l'insertion sociale dans la prison	Culture maraîchère	—	—	
5 Ministère de l'agriculture	Direction régionale de la vulgarisation	Développement des communautés rurales	—	—	
6 Ministère de l'agriculture	Direction régionale de la vulgarisation	Culture maraîchère	—	—	
7 Ministère de la santé	Hôpital régional	Instruments médicaux	—	—	
8 Ministère de la santé	ONG (établissement pour les enfants mal nutris)	Détéicien	—	—	
9 Ministère de la promotion de la femme	Maison de femmes	Arts ménagers	—	—	
10 Ministère de l'environnement et de l'eau	Direction du reboisement	Reboisement	—	—	
11 Ministère de l'action sociale et de la famille	ONG	Assistant social	—	—	

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月12日

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

要請番号 ()

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナ・ファソ	(日本語) : 電気機器 (職種コード) : 320 (現地用語) : Electrotechnicien	新規 交代 1代目	男 人 女 人 不問 1人	11/3 絶対の場合 ○印で囲む
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名(日本語) : 中高等教育科学研究省 (現地用語) Ministre des Enseignements Secondaire, Superieur et de la Recherche Scientifique			
	1) 勤務先名(日本語) : 技術高校 (現地用語) Lycee Technique			
	2) 住所 : 01 BP 98, Ouagadougou 主要都市(ワガデュグ) から 4 km tel. 32-45-87 交通手段(車)で 0.25時間			
請 求 要 件	3) 事業内容及び予算 : 同校は1997年に市内から移転し、今日に到っている。技術高校で、商業科と工業科の2つの学科があり、全校生徒1100名、教師130名、事務職員6名から成り立っている。生徒の年齢は15才から22才までで、3年制となっている。年間運営予算は2千万CFA(約400万円)。この他、民間企業からも従業員教育の一環として、有料で社員を受け入れたりと、夏休み等に生徒をインターンとして企業に送り込んでいる。			
	1) 要請理由(目的) : 本要請は、工業科の中の電気機器専攻科の教師を希望しているもので、電気機器分野で先進的技術を有する日本の技術を隊員を通じてその一端を導入したいと考えているものである。特に実践的な電気工事や家電製品の修理技術について生徒達に基本的知識を教授することを期待している。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 電気機器指導員 (現地用語) foramateur			
概 要	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 当高校は両科とも、修了後に大学に進むクラス(3年制)と企業に就職するクラス(2年制)に分かれている。工業科にある5つの専門科目(電子機器、電気機器、機械、物理、土木)の内、電気機器の生徒(40名)を対象に、指導員として、理論や実践的知識を教授することになる。また、同僚教師8名のレベルアップ(特に実習指導)を図る。技術レベルは、基礎から始まり、備え付けの計器、装置、工具を用いた電気回路等の実験、実習が中心となる。将来的には実践的な電気工事や家電製品の修理技術の指導が期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : モーター、各種電子部品(コンデンサー、トランジスター、ダイオード、etc.)、オシロスコープ、実習机、コンピューター(WindowsNT4 7台、Windows98 2台、Win Circuit 基盤製図用、Win Shema回路図製図用) (添付資料有)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 8名の教師(電気科) : 大卒		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 教師 : 基礎的理論及び技術は十分にあると思われる (より応用のある実技の分野で技術が不足している) 生徒 : 15~22歳、基礎~中級	
7) 訓練すべき言語(フランス語)				
8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 現在はフランス人の専門家2名(土木科と技術科)とアイルランド人の専門家1名(システムエンジニア)が活動している他、オーストリアやカナダ、スイスなどから機材援助を受けている。				
条件	学歴、経験、資格 : 高専卒(電気科)、実務経験2年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月12日

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

要請番号 ()

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナファソ	(日本語) : (職種コード) :330 電子機器	新規 交代	男 人 女 人	11/3 絶対の場合
	(現地用語) : Electronicien	1代目	不問 1人	○印で囲む
配 属 先 要	1) 配属先省庁名(日本語) : 中高等教育科学研究省 (現地用語) Ministre des Enseignements Secondaire, Superieur et de la Recherche Scientifique			
	1) 勤務先名(日本語) : 技術高校 (現地用語) Lycee Technique			
	2) 住所 : 01 BP 98, Ouagadougou tel. 32-45-87		主要都市(ワガデュグ)から 交通手段(車)で	4 km 0.25時間
要 請 要	3) 事業内容及び予算 : 同校は1997年に市内から移転し、今日に到っている。技術高校で、商業科と工業科の2つの学科があり、全校生徒1100名、教師130名、事務職員6名から成り立っている。生徒の年齢は15才から22才までで、3年制となっている。年間運営予算は2千万CFA(約400万円)。この他、民間企業からも従業員教育の一環として、有料で社員を受け入れたり、夏休み等に生徒をインターンとして企業に送り込んでいる。			
	1) 要請理由(目的) : 本要請は、工業科の中の電子機器専攻科の教師を希望しているもので、電子機器分野で先進的技術を有する日本の技術を隊員を通じてその一端を導入したいと考えているものである。特に実践的な修理技術について、生徒達に基本的知識を教授することを期待している。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 電子機器指導員 (現地用語) foramateur			
概 要	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 当高校は両科とも、修了後に大学に進むクラス(3年制)と企業に就職するクラス(2年制)に分かれている。工業科にある5つの専門科目(電子機器、電気機器、機械、物理、土木)の内、電子機器の生徒(15人)を対象に、指導員として、理論や実践的知識を教授することになる。また、同僚教師3名のレベルアップ(特に実習指導)を図る。技術レベルは、基礎から始まり、テスターやオシロスコープを使用しての実験、またラジオやテレビなどの一般的修理技術の指導を将来的に期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 各種電子部品(コンデンサー、トランジスター、ダイオード、etc.)、ハンダコテ、オシロスコープ、実習机、 コンピューター等 (添付資料有)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 3名の教師(電子科) : 大卒、6~8年の教師歴		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 教師 : 基礎的理論及び技術は十分にあると思われる (より応用のある実技の分野で技術が不足している) 生徒 : 15~22歳、基礎~中級	
7) 訓練すべき言語(フランス語)				
8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 現在はフランス人の専門家2名(土木科と技術科)とアイルランド人の専門家1名(システムエンジニア)が活動している他、オーストリアやカナダ、スイスなどから機材援助を受けている。				
条 件	学歴、経験、資格 : 高専卒(電子科)、実務経験2年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月15日

要請番号 ()

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

国名	職 種 名	区 分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナ・ファソ	(日本語) : (職種コード) :330 電子機器	新規 交代	男 人 女 人	11/3 絶対の場合
	(現地用語) : Electronicien	代目	不問 1人	○印で囲む
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名(日本語) : 雇用労働社会保障省 (現地用語) Ministre de l'Emploi, du Travail et de la Securite Sociale			
	1) 勤務先名(日本語) : 職業訓練センター (現地用語) Centre d'Evaluation et de Formation Professionnelle			
	2) 住所 : 01 BP367 Ouagadougou tel.30-68-36/ 31-14-08		主要都市(ワガデュグ市内)から 交通手段(車)で	4km 10分
要 請 概 要	3) 事業内容及び予算: 労働省が管轄する雇用促進事業団が運営する職業訓練センター。1959年設立、本部センターの他全国に5つの地方センターを有する。訓練科としては、木工、溶接、機械、農業具、電子機器の5科がある。隊員が配属される本部センターは訓練生300名、講師30名、年間予算1500万CFA(約3千万円)の規模である。訓練生は、週5日間/40時間の授業を9ヶ月受ける(他にも短期講座有り)。授業料は年間200,000CFA(約4万円)。			
	1) 要請理由(目的) : ブルキナファソ国内が急速に情報化、OA化が進む中、これら機械のメンテナンス、修理技術を有した技術者が不足しており、同センターの講師のレベルアップ、及び訓練生のレベルアップが望まれる。			
	2) 隊員の地位(日本語) : センター指導官 (現地用語) formateur			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲: 隊員の活動場所は、同センターの電子機器保守科になるが、同科は1992年にILOの援助で機材が導入され、設立された比較的新しい学科であることから、今後学生の増加が期待されている(現在は100名近い応募があるが、実定員は15名)。隊員は授業を担当し、訓練生に対し、コピー機、タイプライター、テレビ、ラジオ、パソコンなどの電子機器の修理技術を指導する。また同僚講師の実習指導のレベルアップを図る。訓練生は、修了後、自分のアトリエに復帰する、2~3人でアトリエを設立する、アトリエの見習いとなるなど年令、技術レベルにより多様である。幅広い修理経験があることが望ましい。			
概 要	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 工具一式、テスター、回路モデル、パソコン、コピー機、タイプライター等 (写真添付)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 教師3名(42歳、37歳、39歳) 3名とも同科設立以来、一緒に指導官として働いている(9年)	6) 指導対象者の技術レベル、年齢 講師:一通りの理論教育を受けているが、修理技術については、まだ経験の域をでていない 訓練生:18才~30代(無制限)(中卒条件)		
条 件	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 1992年ILOの援助で機材が供与された。			
	学歴、経験、資格 : 専門学校卒、実務経験3年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境: 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品: 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い)			
	物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月17日

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

要請番号 ()

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナファソ	(日本語) : ソーシャルワーカー (職種コード) : 530	新規 交代 代目	男 人 女 人 不問 1人	(11/3) 絶対の場合 ○印で囲む
	(現地用語) : Educateur Social			
配属先概要	1) 配属先省庁名(日本語) : 社会活動家族省 (現地用語) Ministre de l'Action Sociale et de la Famille			
	1) 勤務先名(日本語) : ストリートチルドレン保護センター (現地用語) l'Action Educatif en Milieu Ouvert			
	2) 住所 : Ouagadougou 主要都市(ワガデュグ市内) から km 交通手段(車)で 0時間			
要請概要	3) 事業内容及び予算: 同センターは1992年に設立され、家出し路上生活者となった子供たちに対し、衛生教育、識字教育、社会活動、経済活動、家庭復帰などで相談にのり、支援している施設である。センター所長の他3名のソーシャルワーカーがいる。1日30名程度の子供たちがセンターに立ち寄る。年間予算5,000,000CFA(約120万円)。同省の非寄宿制のストリートチルドレンを対象とした施設は同センター1ヶ所であるが、市内には15ヶ所程度のNGOや協会による同様の施設があり、それらと連携、交流を図ることもある。			
	1) 要請理由(目的) : 同センターは、立ち寄り子供たちのケアと職員が出かけて路上の子供たちの相談にのったりと幅広い活動をしているが、絶対的な職員の人手不足となっていることから、隊員要請が上げられた。またスポーツ、遠足、カウンセリングによる子供たちの心のケア、簡単な自活手段による社会復帰において、これまでにない新しい活動手法を期待している。			
	2) 隊員の地位(日本語) : ソーシャルワーカー (現地用語) Educateur Social			
概略	3) 期待される具体的な業務内容及び求められる技術の範囲: 様々な理由で家出し、路上生活者となった子供たち(ストリートチルドレン)に対し、衛生上の指導、スポーツの指導、遊びの企画(遠足、演劇)、簡単な職業訓練(靴磨き、木工細工)を行う。貧困、一夫多妻制、コーラン学校、人口都市集中など様々な社会問題の歪みを抱える子供の相談にのり、家庭復帰、学校復帰を支援することが隊員の活動の中心となる。センターの財政も厳しいことから、限られた資機材で工夫した活動が求められる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 卓球台、サッカーボール、木工用具など (写真添付)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 3名のソーシャルワーカー、 国立社会奉仕学院(ENSS=3年生の短期大学)卒 35~38歳		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 7~21歳位のストリートチルドレン	
条件	7) 訓練すべき言語(フランス語)			
	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : UNICEFから6,000,000CFA(約120万円)、カナダから2,000,000CFA(約40万円)の援助を受けている。カナダからの短期ソーシャルワーカー研修生(3ヵ月)			
生活	学歴、経験、資格 : 実務経験2年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境: 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品: 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

事務所・調整員記入欄

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月17日

要請番号 ()

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナ・ファソ	(日本語) : 視聴覚教育 (職種コード) : 634	新規 交代	男人 女人	11/3 絶対の場合
	(現地用語) : Formation Audio-Visuelle	代目	不問 1人	○印で囲む
配属先概要	1) 配属先省庁名(日本語) : 青年スポーツ省 (現地用語) Ministre de la Jeunesse et des Sports			
	1) 勤務先名(日本語) : 青年スポーツ省視聴覚局 (現地用語) Ministre de la Jeunesse et des Sports, Direction des Etudes et de la Planification, Service audio-visuel			
	2) 住所 : Ouagadougou 主要都市(ワガデュグ市内)から km 交通手段(車)で 0時間			
要請	3) 事業内容及び予算 : 同省は青少年の健全育成のために、スポーツ及び青少年活動の振興を行っている。学校教育における体育の普及、全国45地区にある「青年の家」の運営管理、青少年活動普及員の育成等を担当している。その中で、視聴覚局はスポーツと青少年活動の様々な関連行事をビデオ、写真に撮り、テレビ、新聞、雑誌等のメディアに紹介し、広報活動を行っている。			
	1) 要請理由(目的) : 同局は、スポーツと青少年活動の振興のために、様々な啓発広報活動を行っている。日本の優れた広報技術や各種映像技術、録音技術などを導入したいと考えており、協力隊員の技術的サポートを期待している。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 視聴覚教育助手 (現地用語) Assistant-formateur en audio-visuel			
概要	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 隊員は、青年スポーツ省傘下の各種スポーツ団体や青少年活動団体(全国45地区にある「青年の家」)が企画・運営する各種行事を、同僚技術者(映像・録音各担当1名)と協力して、取材、録画、ビデオ編集する。撮影、サウンド収録、編集技術に加え、ある程度の機器メンテナンスに関する知識が必要となる。また、スポーツやイベントシーズンには全国に出張する機会が多くなることから、技術だけでなく、体力も必要となる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 8ミリビデオカメラ(パナソニック)、カメラ(キャノン)、写真引き延し機(フジモト)、ビデオデッキ、ミキサー、テレビ、スピーカー、マイク、拡声器、ビデオプロジェクター (機種一覧、写真添付有)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) シネマ映像担当1名 : 50歳、大卒、 INJES(国立青年体育スポーツ学院)の講師も兼ねる 録音担当1名 : 34歳、高卒 ラジオ局で実務経験8年		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 写真撮影、ビデオ録画、編集の一通りの技術レベルを有しているが、新しい技法の導入を期待している。	
条件	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 98年日本の文化無償資金協力で、テレビ、ビデオデッキが各1台供与された。 また、省内他部局にフランス人専門家が1名活動中。			
	7) 訓練すべき言語(フランス語)			
生活	学歴、経験、資格 :			
	(受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月17日

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

要請番号 ()

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナ・ファン	(日本語) : 幼稚園教諭 (職種コード) : 695	新規 交代	男 人 女 人	11/3 絶対の場合
	(現地用語) : Enseignant(e) de Gardier Populaire	代目	不問 1人	○印で囲む

配 属 先 拠 要	1) 配属先省庁名(日本語) : 社会活動家族省幼稚園局 (現地用語) Ministre de l'Action Sociale et de la Famille, Direction de Gardier Populaire
	1) 勤務先名(日本語) : 同上 (現地用語) 同上
	2) 住所 : Ouagadougou 主要都市(ワガドゥグ市内) から km 交通手段(車)で 時間

3) 事業内容及び予算:
同省幼稚園局は、全国にある153の幼稚園(公立79、私立74)の監督をし、幼稚園行政、教育カリキュラムの策定、幼稚園教諭の指導等を行っている。同国の幼稚園は3年制で、市内公立幼稚園の平均的規模は教諭数3~5名、児童数1クラス25~40名、予算年間約150万~250万CFA(約35~55万円)である。

要 請	1) 要請理由(目的) : 幼稚園教諭の養成機関(国家社会奉仕学院)が全国に1校しかなく(年間約30名の幼稚園教諭を輩出)、多くの教諭は実習により育成されているため、教育内容が経験的なものになりがちである。よって、日本の幼稚園で行われている多様な教育内容及び手法を導入するために、隊員要請が上げられた。
	2) 隊員の地位(日本語) : 幼稚園教諭 (現地用語) Enseignant(e) de Gardier Populaire

概 要	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲: 隊員は本省幼稚園局を活動の中心とし、幼稚園局監督官とともに、市内にある21の公立幼稚園の教諭を対象に折り紙・おもちゃ製作等のセミナーを開催する。また、個別に市内の幼稚園を訪問し、園児を対象に日本で実施されている様々な教育内容を紹介する。限られた資材で、教育的「遊び」(折り紙、ゲーム、歌、ダンス等)を導入する創意工夫が求められている。将来的には、地方にも出張し、巡回指導をすることが期待されされており、今後の同国における協力隊員の幼稚園教諭派遣展開を考えながら活動することになる。
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 各幼稚園には簡単な遊び道具(ブランコ、積木)、絵本などの教材、黒板がある(写真添付)

要 請	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 複数の本省幼稚園局監督官 国家社会奉仕学院(ENSS=3年制の短期大学)卒 (基本的な幼稚園教育、行政については、知識、経験とも豊富である)	6) 指導対象者の技術レベル、年齢 幼稚園教諭(20~45歳) 園児(3~6歳)
	7) 訓練すべき言語(フランス語)	
	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 一部の幼稚園は外国の援助(イタリアなど)で建設されたものがある。UNICEFの教材(公衆衛生)が配布されている所もある。	

条 件	学歴、経験、資格 : 幼稚園教諭、実務経験3年 (受入れに不可欠のみ記入)
--------	--

生 活	生活環境 : 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)
--------	--

①募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月17日

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

要請番号 ()

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナ・ファソ	(日本語) : (職種コード) :743 バレーボール (現地用語) : Volley-Valle	新規 交代	男 人 女 人 1 代目 不問 1人	11/3 絶対の場合 ○印で囲む
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名(日本語) : 青年スポーツ省 (現地用語) Ministre de la Jeunesse et des Sports			
	1) 勤務先名(日本語) : 国立青年体育スポーツ学院 (現地用語) Institut National de la Jeunesse, Education Physique et Sports			
	2) 住所 : Ouagadougou 主要都市(ワガデュグ市内) から km 交通手段(車)で 0時間			
請 概 要	3) 事業内容及び予算 : 同学院は、1976年に設立され、全国にある「青年の家」の行事を企画、運営を担当する管理者と中学、高校の体育教師を養成する機関である。学生数は60名で、教師数20名プラス外部講師7名、事務職員16名により運営されている。年間予算15,000,000CFA(約300万円)。青年科と体育科があり、1年生25名(青年科5名、体育科20名)、3年生35名(同10名、同25名)があり、2年生は欠員になっている。3年前から一部の学生は、年間250,000CFA(約5万円)を授業料として支払って入学している。			
	1) 要請理由(目的) : バレーボールは同国においてサッカー、サイクリズムに次いで、人気の高いスポーツである。同学院の学生はもとより、バレーボール教師に対しても、効果的な指導方法、トレーニング方法を指導するために要請が上げられた。			
	2) 隊員の地位(日本語) : バレーボール教師 (現地用語) Maitre du Volley-Valle			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 隊員はINEPSのバレーボール教師に効果的な指導方法、トレーニング方法を教えることになる。また、同僚教師と協力してバレーボールの授業を受け持ち、学生にも指導することになる。このため、初心者からベテランの教師まで指導できる幅広い指導方法を知っていることが必要となる。また場合によっては、ナショナルチームの指導もありうる。			
要	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : アウトドアコート、ボール、ネットなど、ボールが少し不足気味 (写真添付)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 教師3名(35~45歳) 3~5年の教師経験		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 教師 : トレーニング方法が限定的 学生 : 基礎的技術から中級程度(18~22歳)	
	7) 訓練すべき言語(フランス語)			
条 件	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 特になし。			
	学歴、経験、資格 : 指導経験 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位) 任地の人口(120万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

事務所・調整員記入欄

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成 11年1月17日

調査者名 堀内好夫・野々山裕子

要請番号 ()

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ブルキナ・ファソ	(日本語) : 柔道 (職種コード) : 761	新規	男人	11/3
	(現地用語) : Judo	交代	女人	絶対の場合
		代目	不問 1人	○印で囲む
配属先概要	1) 配属先省庁名(日本語) : 青年スポーツ省 (現地用語) Ministre de la Jeunesse et des Sports			
	1) 勤務先名(日本語) : 国立青年体育スポーツ学院 (現地用語) Institut National de la Jeunesse, Education Physique et Sports			
	2) 住所 : Ouagadougou 主要都市(ワガデュグ市内)から km 交通手段(車)で 0時間			
要請	3) 事業内容及び予算 : 同学院は、1976年に設立され、全国にある「青年の家」の行事を企画、運営を担当する管理者と中学、高校の体育教師を養成する機関である。学生数は60名で、教師数20名プラス外部講師7名、事務職員16名により運営されている。年間予算15,000,000CFA(約35万円)。青年科と体育科があり、1年生25名(青年科5名、体育科20名)、3年生35名(同10名、同25名)があり、2年生は欠員になっている。3年前から一部の学生は、年間250,000CFAを授業料として支払って入学している。			
	1) 要請理由(目的) : 同学院には柔道教師が1名しかいないが、学生の関心が高い。同学院の学生はもとより、柔道教師に対しても、効果的な指導方法、トレーニング方法を指導するために要請が上げられた。			
概要	2) 隊員の地位(日本語) : 柔道教師 (現地用語) Maitre du Judo			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 隊員は同学院の柔道教師に効果的な指導方法、トレーニング方法を教えることになる。また、同時に同僚教師とともに柔道の授業を受け持ち、学生に指導することになる。学生は卒業後、中学高校の体育教師になる場合は多いが、柔道に関しては初心者が多い。このため、初心者からベテランの教師まで指導できる幅広い指導方法を知っていることが必要となる。また、ナショナルチームの指導も期待されている。			
要件	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 体育館内にある畳、各種トレーニング道具など (写真添付)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) 教師1名、49歳、4段 同学院の教師を89年より勤めている		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 教師 : トレーニング方法が限定的 学生 : 基礎的技術から中級程度(18~22歳)	
	7) 訓練すべき言語(フランス語)			
条件	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : 98年日本の文化無償資金協力で、畳が供与され(5千万CFA:約1千万円相当)、市内の各道場に配付され使用されている。他国の援助は特になし。			
	学歴、経験、資格 : 3段 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候(乾期 10月~5月 雨期 6月~9月)・気温(9~46℃位)			
	任地の人口(120万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

①募集資料用

3 協力隊員派遣計画

3-1 協力隊活動のポテンシャル

協力隊員の活動先としてのポテンシャルは、以下の理由から、非常に高い。

- (1) 最貧困：UNDP人間開発指数174ヵ国中172番目に位置し（一人当たりGNP230米ドル）、あらゆる分野で開発ニーズが高い。「村落型」の要請発掘が可能。
- (2) 治安：現政権の政治的安定・犯罪率の低さ
- (3) 国民性：「発展指向」「勤勉」

3-2 重点分野

- ・最貧国に数えられる当国においては、基礎的生活分野への支援を通じての貧困緩和が最優先課題である。
- ・あらゆる分野のニーズが高いが、新規派遣国で安定した人数の派遣が望まれるため、充足率の高い職種を優先する必要がある。

(1) 教育分野

成人識字率18.7%、初中高等学校合計就学率20%という低い数字から、教育分野の改善は重要課題である。極端に低い基礎教育の普及があらゆる開発の最大障害要因となっている（成人識字率が10%代の国は全世界で2カ国のみ）。また、長期的視野にたった発展を考える（がまんを惜しまない）国民性のため、貢献しやすい分野と思われる。ただし、フランス語圏であるため、語学、教育システムの相違の問題があるため、活動先は「学校」にとらわれないこと、また職種の工夫が必要である。例えば、実習を中心とした活動（教育的遊びを指導する「幼稚園教諭」、実験を中心に指導する工業高校講師）、子供を学校に戻す活動（ストリートチルドレン保護センターにおける「ソーシャルワーカー」）、青少年の健全育成（青年の家における「青少年活動」）などから、広義の就学率向上を考える必要がある。また、無償資金協力で小学校建設を実施中であることから、連携した活動による初等教育就学率の向上を目指す。

(2) 農業／環境分野

就業人口の95%が農業に従事し、農業生産が同国のGDPの40%を占めることから、農業分野のニーズは非常に高い。また、干ばつや小雨、人口増加による過剰耕作、森林の過剰伐採などによる砂漠化が深刻であり、国としても砂漠化防止、食料生産量の向上は優先開発課題としている。1994年に国が始めた「8000の村に8000の森（2000万本植林）計画」のもとで、Foret ClasseやForet Villegoiseの数も隣国ニジェールやセネガルと比較すると多い。また、苗木を有料化しているところもあり、「お金を払ってまでも植林する」という意識が一部で見られる。今回の調査でも複数の要請が水利環境省から出されたが、ハイレベルの研究機関等が中心であったため、今回は具体的な要請は見送った（当分野における隊員活動は極力地方の現場が望ましい）。今後地方展開を進める上では、要請発掘の可能性が高い分野である。配属先のレベルを吟味すること、また異職種の連携がで

きる環境を選ぶこと（同任地に「村落開発普及員」「植林」「野菜」の組み合わせ等）が重要と思われる。水利環境省派遣の専門家、無償資金協力の地方苗畑整備と連携した、砂漠化防止、農村開発を目指す。

（3）保健医療分野

出生時平均寿命46.4才（低所得国平均寿命62才）、5才未満乳幼児死亡率1000人当たり101人と、いずれも世界で最も低い数値を示していることから、保健医療サービスの向上は緊急課題である。しかし、ピースコーが重点分野として既に50名近くPHCの隊員を派遣していること、また今回の調査で保健省のトップレベルではニーズが表明されなかった点に留意する必要がある（不足しているのは医師であり、看護婦は国内で十分に養成されている、ピースコーの活動に関しても詳細を把握していないというコメントあり）。今後、地方において要請背景調査をする上で、現場のニーズをすくい上げ、要請を形成していく必要がある。診療所や「女性の家」を拠点とした「家政」や「栄養士」隊員による栄養指導、衛生教育から入り、将来的に「看護婦」「保健婦」を派遣することが妥当と思われる。また無償資金協力で地下水開発を実施中であることから、安全な水へのアクセス向上から連携した衛生教育、PHCの向上を目指す。

3--3 事業展開(案)

要請開拓	募集時期	11春 99.2 ～ 99.8	11秋 99.8 ～ 00.3	12春 00.2 ～ 00.8	12秋 00.8 ～ 01.2	13春 01.2 ～ 01.8	13秋 01.8 ～ 02.2	14春 02.2 ～ 02.8	14秋 02.8 ～ 03.2	15春 03.2 ～ 03.8	15秋 03.8 ～ 04.2
	新規要請	8	0	5	5	10	10	10	10	10	10
	年度要請	8		10		20		20		20	

隊員派遣	隊次	11/3 (00.4)	12/1 (00.7)	12/2 (00.12)	12/3 (01.4)	13/1 (01.7)	13/2 (01.12)	13/3 (02.4)	14/1 (02.7)	14/2 (02.12)	14/3 (03.4)	15/1 (03.7)	15/2 (03.12)	15/3 (04.4)
	新規派遣	6	2	2	3	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	年度派遣	6	7			15			15			15		
	常駐派遣数	6	13			22			30			30		
	年度	11年度	12年度			13年度			14年度			15年度		

- (1) 平成11年度3次隊の派遣にあたっては、調整員を半年前(99.10)に派遣し、隊員の受け入れ準備(現地訓練の選定、医療施設の選定)、隊員配属先との最終調整(隊員住居等)、平成12年度春募集の要請背景調査を行う必要がある。
- (2) 本格的な要請背景調査が行われる平成12年度秋募集までは、年間一桁の隊員派遣に止まると想定される。(1～2年目：15名体制)
- (3) 上述のとおり、あらゆる分野でニーズが高いこと、隊員らしい活動が可能な配属先が多いこと、治安が良いことから、事務所機能が一旦確立してからは、年間20近くの要請開拓が可能と思われるため、平成13年度以降は年間15名程度の隊員派遣を目指す。(3～4年目：20名～30名体制)
- (4) 事務所機能が拡大すれば、将来的には50名体制が考えられる。

*事業展開の上での懸案事項

- (1) 在外公館がなく、「ブ」側の日本の援助システムの理解が十分でないこと、協力隊員の後方支援(有事の体制確立等)が未整備であること。
- (2) JICA内部においても「ブ国別基本情報」が未構築で、情報が不十分であること。

4 調査概要

4-1 省庁別協議内容

援助窓口：外務省（1月11日 10：00～11：30）

- (1) 阿部所長から、本調査団の目的及び調査方針を述べた後、環境水利省以外からのブルーシートが未着のため、他の要請の提出状況の確認を行った。
- (2) サニユー国際協力総局長から、協力隊の派遣は大統領自身の関心はかなり強く、待ち望んでいた旨発言があった。また、ブルーシートに関しては、調査団受入に当たり、各省庁を集めて説明を行ったところ、各分野の要請が現在随時提出されつつある旨、回答があった。
- (3) サニユー局長から、隊員派遣開始（2000年4月）までの期間が長すぎる旨発言があったが、JICA側から公募性のシステム、及び新規派遣にかかる後方支援整備の必要性を説明し、一応の理解を得た。
- (4) 事務所物件、公務員給与表や海外手当に関しては、別途調査協力を依頼することとした。
- (5) 1月15日に別添調査報告を行い、8つの要請を「ブ」国政府の公式要請とすることで一致、また公式化の手続については「ブ」国外務省から口上書をもって要請越すよう依頼した。

中高等教育科学省（1月11日 11：45～12：45）

今回の要請：電子機器、電気機器

- (1) 概要：同省の管轄は中高等学校、職業訓練校、工業高校、大学、教員養成校、高等師範校である。「ブ」国の教育制度は、小学6年、中学3年、高校3年で、中学から一般中学と技術中学に分かれる。職業訓練校は労働省管轄だが、工業高校は中高等教育省管轄となる。高等教育は大学（首都、ホボの2校）、教員養成校、高等師範校に分かれる。
- (2) 要請背景：「ブ」国では、技術訓練に対して、基礎を持った人と高度なレベルを持った人はいるが、中間層がないのが大きな問題となっている。特に援助で入った機材の整備が追いついていないため、全国的に工業高校のレベルを上げたいと考えている。

1 工業高校（1月12日 17：00～18：30）

要請：電子機器、電気機器

- (1) 概要：1977年に設立、生徒数1100人、教師130人、事務職員6人から成る。生徒の年齢は15～22歳で、3年制と成っている。商業科（生徒650人）と工業科（450人）の学科があり、要請が出された工業科には機械、電子機器、電気機器、物理、土木の5つの専門がある。電子機器には先生6名、生徒30名、電気機器には先生8名、生徒80名がいる。生徒は中学を卒業してから入学し、卒業後は、電気工、OA機械修理、建設技師となることが多い。
- (2) 要請：「ブ」国では、最近特にOA化、情報化が進んでおり、これらOA機器のアフク

サービスのお店が増えており、そこで働ける人材を育てたいと考えている。電子機器、電気機器の分野で先進的技術を有する日本の技術を導入したい。基礎的理論及び技術は十分にあるが、より応用のある実技の分野で技術が不足しているため、特に実践的な修理技術を指導してもらいたいと考えている。併せて各種機械のメンテナンス（工業機械）の隊員も希望していたが、コンピューター、コピー機などの修理技術は各企業で所有するため、隊員レベルでは困難であることを説明、あくまで基本的実習を指導する上記2職種にすることとした。

青年スポーツ省（1月11日 17:00～18:00）

今回の要請：柔道、バレーボール、視聴覚教育、青少年活動

(1) 概要：全人口の60%を占める青年の学校外での教育を担当している。スポーツ振興以外にも適宜各省庁と連携し、AIDS対策なども行っている。全国に11の地方局（省独自の区分）がある。

(2) 要請背景：「柔道」は日本から供与された柔道用具のさらなる活用を考えている。「バレーボール」は高額な用具を必要としないため、国民の感心が高く、同国ではサッカー、サイクリズムの次に人気がある。日本のバレーボールの高度な技術を習得したいと考えている。「視聴覚教育」はスポーツ省の中でスポーツ活動の広報を行っている局があり、さらなる広報を展開したいと考えている（担当者は日本で研修を受けている）。「青少年活動」は各地区（全国45地区）に同省管轄の「青年の家」（Maison des Jeunes）があり、現在はスポーツ、レクリエーション、文化活動、演劇を行っているが、今後ライフセンターとして、職業訓練も行いたい。基本的に学校以外の活動を担当しているが、これらの活性化を図りたいと考えている。

(3) 大臣から、協力隊派遣に対する期待、及び他の援助に対する謝意が表明された。特に、昨年文化無償で供与された柔道用具（5000万CFA）、自動車のお陰で、98年2月にアフリカ全国柔道大会が開催できたことに対して感謝の意が表明された。今後は、サッカー競技場整備のための芝刈り機、地方局の活動のための自動車の供与（88年に10台日本が供与したものの更新）などに対する要望があることが述べられた。これに対し調査団からは、協力隊が今までの二国間協力に新しい方向を生むこと、「共に働き、学びあっていく精神」であること、また「人と人の協力」であるため、機材供与は困難であることを説明した。

1 国立青年体育スポーツ学院（1月13日（火）15:30～17:00）

今回の要請：バレーボール、柔道

(1) 概要：1976年に設立され、全国にある「青年の家」の行事を企画、運営を担当する管理者と中学、高校の体育教師を養成する学校である。学生数60名、教師数20名、プラス外部講師7名、事務職員16名により運営されている。年間予算15,000,000CFA。青年科と体育科があり、1年生25名（青年科5名、体育科20名）、3年生（同10名、同25名）があり、2年生は予算の関係上欠員になっている。

(2) 要請：「柔道」「バレーボール」両要請とも、同校の学生はもちろんのこと、教師（バ

レーボール3名、柔道1名)に対しても、効果的な指導方法、トレーニング方法を指導して欲しいと考えている。なお、柔道に関しては、ナショナルチームへの指導も期待されている。

2 青年の家 (1月13日 17:00~18:00)

今回の要請：青少年活動

(1) 概要：青年の家は7~35歳を対象とし、青少年活動の一環として演劇、音楽、映画などを適宜開催する場所である。

(2) 要請：訪問した青年の家の責任者は青少年活動の専門ではなく、また隣接する国家青少年スポーツ学院からも専属の普及員が配属されるわけではなく、時々巡回に来るのみである。印象としては、区民会館のように場所のみを提供するところであり、普及員が自ら積極的に青少年を集め活動を展開するという位置づけではなかった。また、国立青年体育スポーツ学院の卒業生は直接普及員となるのではなく、普及員の統括者(計画、モニタリング)となり、隊員にもその内容の活動が期待されていたため、隊員の活動は現場を主とすることを説明の上、省内での調整を待つこととした。一方、今後地方の「青年の家」は隊員の活動の場としては十分考えられる。

農業省 (1月12日 8:00~9:00)

今後見込まれる要請：村落開発、野菜

(1) 概要：5局(調査企画、野菜生産、農業普及、地方開発促進、総務)、12地方局、45郡からなる。市場経済、農業の近代化、農村女性の地位向上、農業従事者の育成を戦略としている。特に穀物、野菜、綿花の生産性の向上を目指している。

(2) 要請：調査企画部門、稲作技術の専門家の要請を出す意向があったようだが、調査団から、本省における調査企画は協力隊のレベルには高いこと、稲作もニジュールでは現場で普及員として活動していることを説明した。次官から、基本的に農民への普及レベルとすることで理解、分野では、稲作以外に、園芸、果樹、病虫害対策、農業土木を考えたい旨発言があった。(稲作は、主に西部地方が産地。病虫害対策は現在いなごが大量発生した場合のみ中央レベルで対応しているが、ほとんどは各地方で対応している旨説明があった。)

調査団から2KRと関連して隊員を入れることも提案した。

1 農業省普及局 (1月14日(木) 8:00~9:15)

今後見込まれる要請：村落開発、野菜

(1) 概要：3部(普及研究開発・評価モニタリング・訓練)、地方機関(州12、群45)から成る。農業の普及方法の開発、実施、評価を行っている(地方自治体や援助機関と連携した活動が多い)。

(2) 農業全般：食糧自給を目指し、穀物(米、とうもろこし、ミレット、ソルガム)に力を入れている。3年前から特に稲作に力を入れている。大部分が天水による稲作だが、政府によ

り整備された灌漑施設もある。現金収入の面で、綿の生産（西部地域）が成功している。（3）女性の活動：中央、各州支局（12）、各郡（45）に一人ずつ女性活動担当者がおり、農村における女性の地位向上、生活改善のために女性対象の農業生産、加工訓練を実施したりする。（4）要請：現在未提出でだが、当初は本局に「視聴覚機器のメンテナンス」の隊員を想定していたようである。調査団から、地方レベルでの「村落開発普及員」を提案したところ、各地方局への配属を考えたい旨解答があった。（地方局は次官の管轄のため、普及局が各地方局に行き、将来直接農業省に要請をあげるよう説明を行うこととする。）

2 バゼカ自然資源管理プロジェクト（1月16日（土）9：00～12：00）

（1）概要：本プロジェクトは農業省主管のもと実施されている地域農村総合開発で、視察したBazega群Boromtenga村では以下の活動が行なわれていた。

- ・プロジェクト開始年：1996年
- ・対象地域：Bazega群Boromtenga村、74世帯、約800人の住民
- ・活動内容：農地の土壌浸食防止対策、村内緑地保護、家畜小屋の建設と堆肥収集場の建設、低地改良簡易灌漑施設建設、小学校と井戸、トイレ、教員宿舎の建設
- ・プロジェクト特徴：

プロジェクトは群内260村の内81ヶ村59ヶ所で実施しているが、はじめに村人たちが主体的に農村開発をする意思があるかどうか、また幹線道路から村へのアクセス状況などを考慮し、実施されている。プロジェクトの成否は第一に村民の意思にかかっており、自主的な参加意識の薄い村落に対しては協力をしないとのこと。また基本的に開発のための資金はなく、ほとんど村民の労働力と村で調達できる資材で建物や施設を建設している（侵食防止のための石積み、堆肥作りのための納屋、森林保護のための柵建設等）。これらの計画を進めるため、農業省から委託されているプロジェクト担当官が、開発計画を作成し、村民を指導しながら実施されている。小学校の建設のようにまとまった資金が必要な施設については、計画書と見積もり書等を農業省に提出し、農業省はこれを審査の上、アフリカ開発銀行に申請し融資を受け、建設が行なわれる。ローン返済は政府が行なう。小学校の建設に際しては、井戸の建設ができる場所であることを第一条件とし、必ず衛生教育を行うようにしている。また学校が建設された場合には、教育省はかならず教師を派遣することになっているため、教員宿舎の建設もパッケージとなっている。同村にも3人の教師が派遣されていた。

（2）隊員要請：隊員要請については現段階では上がってきていないが、同プロジェクトの担当官と一緒に村々を巡回し、大小のプロジェクトの計画実施の指導（村落開発普及員）にあたる業務など、隊員の活動現場として非常に適した案件と思われた。今後この分野での積極的な展開が期待できる。

また、当プロジェクトは、隣国ニジェールで実施されている緑の推進協力プロジェクトの参考になる部分が大いと思われた。①地域住民による立案、地域にある資機材が前提となっていることから村民の「自発性」が重視されていること②「持続性」のための様々な配慮があること（生徒、教師の定着を考慮した小学校建設、村人で支えられる規模の植林、村人の手による森林保護等）等は、協力隊員のチーム派遣に参考になると思われた。行政や援助主導ではな

く、行政、援助を利用した地域開発の良い例と思われる。

保健省（1月12日 9：30～10：30）

今後見込まれる要請：医療機器、栄養士

(1) 要請：医療分野ではエジプト、キューバからすでに多くの援助を受けているので、重複のないようにしたい。また、日本から日本ブルキナファソ協会（NGO）の看護婦が首都から250kmの村の診療所で看護婦として活動、また栄養改善のための野菜づくりも行っている。「作業療法士」の要請を考えたい旨発言があったが、協力隊は基本的に機材を携行しない旨説明したところ、活動は困難であるため、取り下げられた。

1 保健省公衆衛生局（1月14日（木）15：30～16：45）

今後見込まれる要請：医療機器、栄養士

(1) 医療教育概要：医者7年（ワガドゥグ大学医学部1校）、看護婦3年、助産婦3年（公衆衛生校5校）、準助産婦2年、専門看護（麻酔、手術助手）経験5年＋2年学校の教育を行っている。医者は全国に193名いる。看護婦は毎年約200名輩出され、不足していない。

(2) 医療施設概要：11病院、900センター（Centre de Sante Promotion et Sociale：診療所兼母子保健センター）センターには、看護婦1名、助産婦1名、普及員（Agence Itinerant de Sante）がいる。

(3) 問題：医者の絶対的不足、機械のメンテナンスができる人がいない（国内では専門校がないため、フランスに留学するのみ）

(4) 要請：現在未提出だが、「医療機器」「医師」を期待しているとのことであった。調査団から「医師」に関しては、リクルートが極めて困難である旨を説明、「看護婦」「助産婦」「栄養士」を提案した。看護婦は全国で足りていること、地域医療ではピースコーが大勢入っているため、特にニーズが高くないとの解答であった。「栄養不良児施設」に関しては、省管轄のものはないが、カトリック系NGOのものがあるので、将来要請発掘が可能と思われる。

水利環境省（1月12日 11：00～12：30）

今回の要請：稲作、生物測定、小規模水利施設施工

今後見込まれる要請：植林

(1) 要請背景：「稲作」は地方の水田耕作の技術指導を要望するもの。「生物測定」は国立研究センターで、乾燥に強い育種の開発を目指している。国際レベルの実験研究を行っているが、生物測定学の専門家が不足している。「小規模水利施設」は本省の水利局で全国にあるダムの施工、管理、運営の監督を期待している内容であった。調査団から、隊員派遣開始当初は首都のみのため、「稲作」については調整員が着任してから継続協議とすること、また「小規模水利施設」は若い隊員の幅を越えるものであり他のスキームで対応することを助言した。「生

物測定」に関しては、13日にセンターを現地調査の結果、専門家レベルの活動内容であったため、要請取下げとした。

1 環境水利省村落植林推進計画局(1月13日(火) 8:00~9:15)

今後見込まれる要請：植林

(1) 概要：3局(漁業、動物、植林)、地方10支局から成る

(2) 活動：村落林業計画(啓蒙、訓練、苗木生産、植林)、森林整備計画(Foret Classの保護など)、木材とエネルギー(エネルギーの90%が木材のため、計画的伐採を指導)の3つのプログラムがある。地方支局で、それぞれのプログラムを実施している。

(3) 苗木生産：全国に10の苗畑があり、苗木は有料で販売している(後記地方苗畑では、実質ほとんどの苗木は無料配付している旨説明があった)。

森林保護：Foret Classeが全国に78箇所(88万ha)ある。

(4) 要請：現在要請は出されていないが、村落林業では苗木生産、植林、森林整備ではコンピューターを使った地図作製(GIS)の隊員を考えたいとのことであった。本省の配属を希望することに対して、調査団から専門家が98年6月に予定されていることからデマケーションが必要なこと、また政策にかかる活動は隊員には妥当ではないため場合によっては地方苗畑の場所を一つ選定した方が良いのではないかと提案した。なお、地方苗畑における活動は16日の現地調査の結果、継続協議することとした。

2 国立林業種子センター(1月13日 13:00~15:00)

今回の要請：生物測定

(1) 概要：83年設立、世界にある種子研究センターの10本の指に入ると言われている。研究、普及、生産販売の3課に分かれている。職員47名。

(2) 活動：植林のための種子の生産、育種改良、生態学、種子工学など種子の研究、種子の販売(研究機関、国民一般、諸外国に年間約21販売)、購入者に対する啓蒙、普及活動を行っている。

(3) 要請：生物測定学の専門家を期待した内容であったが、調査団から特化した研究職であり専門家レベルの内容であるため、たとえばSEでデータ処理の隊員ではどうか提案したところ、その場合も生物学の専門でないと活動が困難であるとのことであったため、要請取下げとした。

3 ナグバングル苗畑事務所(1月16日 15:30~17:30)

今回の要請：植林

(1) 概要：水利環境省管轄の同苗畑事務所はワガドゥグ市内から20km北に位置し、1955年イスラエル援助により建設された。この後ドイツの援助も入ったが、老朽化が進んでいる。同苗畑でも苗木生産としては、76年から80年頃まで数百万本の生産を行っていたが、その

後生産本数も減少し、98年度は18万本の生産となった。11万haの苗畑場には、2台のポンプと2基の給水塔がある。水源は隣接するダムの水を利用している。事務所には2人の森林官と2人の契約職員が常駐しているが、苗木生産シーズンである2月から6月にかけては、15人の臨時従業員を雇っている。

(2) 活動：事業としては、苗木生産の他、森林官の研修所として、また村民への植林指導を行っているが、現在は頻度は高くない。今年度については、まだ（後記バゼカのような）地域総合開発プロジェクト等からの苗木の申し込みが一件もなく、生産の見込としてはせいぜい5万本位にしかならないだろうとのことであった。年々生産量が減少してきている理由としては、多くの地域で植林が進み、村民も苗木生産技術をある程度理解し始めたことから、必要な場合は自分達で苗木調達、植林ができるようになったことが上げられる。

(3) 要請：水利環境省村落植林推進計画局での協議の中では、同局が実施している事業の中で村落植林推進プロジェクトがあり、植林の普及、啓蒙、教育、生産の計画・推進を行っており、この本局に植林隊員を派遣して欲しい旨の発言があった。しかし、今年3月にはJICA専門家が同局に派遣される予定であり、その役割分担や業務内容等から、隊員は本局でなく、できるだけ現場に近い所が活動先として望ましいと調査団から提案し、今回同苗畑事務所を訪問した。結論としては、同事務所の老朽化が激しく、現在生産量の減少により活動が低迷していることから、仮にここに隊員を派遣する場合でも、無償資金協力によりある程度施設の運営がしっかりと立ち上がってからの派遣が望ましいと思われた。なお国内にはまだ地方に10カ所程度苗畑事務所があるため、同分野への協力の可能性は高く、今後現場調査を行なったうえで、然るべく隊員の派遣について検討されることが適当である。

4 スルー流域整備公社（1月14（木）9：30～10：45）

今後要請の見込まれる可能性：農業機械、稲作

(1) 概要：3部（開発、技術、総務財政）、職員83名（内本部35名、現場48名）

(2) 活動：首都から北西270kmにあるムフフン川流域開発のとして、農地4万haの整備を計画している。現在3500haを整備済み。JICA開発調査によると、約800万CFA/haの資金が必要となる。イスラム開発銀行、サウジ銀行、アフリカ開発銀行などの援助が入っている。外国人専門家はモロッコ人が98年8月までいた。

(3) 要請：「農業機械」「稲作評価モニタリング」の隊員を希望していた。調査団から、「農業機械」は地方配属のため、調整員赴任後、現場調査を行うために継続協議することを提案した。「稲作」に関しては、業務内容が広いため「稲作」、「事業評価」、「情報処理」に分けるよう提案、また「事業評価」については、専門家レベルの内容であるため他のスキームで対応することを助言した。

社会活動家族省 (1月12日 15:30~16:30)

今回の要請：ソーシャルワーカー、幼稚園教諭、家政

(1) 概要：就学前児童、女子、恵まれない子供を対象とした3つの局がある。

(2) 活動：

1) 不良児教育は、施設活動(Mileu Ferme)、オープン活動(Mileu Ouvert)の2種類がある。前者は13~16歳の問題児を対象とした寄宿制の施設で、家族の要望あるいは判事の判断で子供が収容される。木工、溶接、庭作り、畜産、初等教育などを指導する。後者は、ストリートチルドレン(7~18歳)を追跡し、小さな施設に呼び、靴みがき、服の仕立てなどを通して子供の再教育を行う。職員は基本的に町に出ていることが多い。

2) 就学前児童教育は、3~6歳を対象とする。全国に公立79校、私立78校の幼稚園がある。幼稚園教諭の育成機関は全国に1校国立社会奉仕学院(Ecole Nationale de Service Social)あり現在までに137名の(正式な幼稚園資格を持った)教諭が輩出されている。

3) 女子教育は、13~20歳を対象としたセンターがある。手工芸などの訓練を行っている。

(3) 要請：「ソーシャルワーカー」はAction Educatif en Mileu Ouvert(ストリートチルドレン保護センター)に隊員を配属、「幼稚園教諭」は本局への配属を考えているとのことであったが、それぞれ現場(後者は幼稚園の一例)を調査の結果、要請を公式化することとした。

1 SID ZIGLOGO (市内公立幼稚園) (1月15日 8:00~9:20)

今回の要請：幼稚園教諭

(1) 概要：85年にイタリアの援助で設立。教諭5人、園児81名(年少26名、年中30名、年長25名)から成る。予算は1,500,000CFA(計画額2,500,000CFA)。授業は月曜日~金曜日の6:45~12:00で、遊び、読み書き(フランス語、現地語)、絵、スポーツ、歌、ダンスなどを指導している。授業料は月2500CFA(私立は75,000~200,000CFA)、学用品は年間6000CFA。

(2) 幼稚園制度：公立(Gardier Populaire)私立(Jardin)があり、教育内容は全国で統一されている。ワガドゥグ市内には公立21校、私立60校がある。公立は1クラス40名以上の園もある。幼稚園教諭資格：1) 中学(4年)、高校(3年)卒業後、幼稚園で1年間幼稚園教諭助手として働き、その後1ヵ月の研修を受ける。2) 高校卒業後、Ecole National de Service Sociale(ガワ)の幼稚園科で3年間学ぶ。年間35人卒業。

(3) 要請：現在幼稚園教諭の専門育成をしているのが全国で1箇所のみのため、幼稚園で指導する内容に限界がある(多くの先生が実習のみにより育成されている)。よって、図工、遊びなど子供の想像力を高めるものを指導し、先生達に新しい教育内容及び手法を伝達して欲しいとのことであった。本省幼稚園局、市内幼稚園巡回、幼稚園1校への配属、いずれを希望するか確認したところ、派遣される隊員と協議しながら決めたいということであった。調査団から、当初は幼稚園局を活動の主として、その後に複数の市内幼稚園を巡回しながら教諭として実際の現場の活動をすることを提案した。また、将来的には協力的な幼稚園に複数名の隊員

を直接派遣することが考えられるため、1代目の隊員にはその要請発掘の役割も自ずと出てくることと思われる。

2 ストリートチルドレン保護センター (1月15日 10:30~11:45)

(l' Action Educatif en Milieu Ouvert)

今回の要請：ソーシャルワーカー

(1) 概要：同センターは1992年に設立された非寄宿制の児童（ストリートチルドレン）保護センターで、社会活動家族省管轄のものとしては、全校に1箇所のみである。（この他類似のセンターとして同省管轄の寄宿制保護センターがある。）しかし、NGOや協会などで同じような活動をしている所が、市内に15ヶ所程あり、これらと連携・交流も図っている。同センターには4名のスタッフがあり、1名の責任者と3名のソーシャルワーカー(Educateurs Sociaux)が活動している。

(2) 活動：

- ①衛生教育（センターで体を洗う、洗濯をする、けがをしている子供の手当てをする）
- ②教育（夜間識字教育、学校へ行かせる）
- ③経済復帰（子供達が現金収入を得るために、簡単な道具の援助をする、靴磨きを教える等）
- ④社会活動（テーマを取り上げて語り部を開催する、植林運動に参加する、スポーツ、演劇活動に参加する）
- ⑤家庭復帰（家族問題や学校の落ちこぼれ、イスラム学校での問題等から家出した子供を家庭に帰す）

センターを訪ねてくる子供のみを対象とするものではなく、センター職員が町に出て、子供の相談役を行っている。

(3) 要請：同センターの職員として1名隊員の要請があった。職種としては、ソーシャルワーカーが妥当と思われる。3名の職員は35歳から38歳でEducateurs Sociaux（社会教育者）と呼ばれ、国立社会奉仕学校(Ecole Nationale du Service Social)で3年間専門の教育を受けた人達である。隊員は同僚のワーカーと一緒に施設内外の活動を行っていくことになるが、財政的にも厳しい運営となっていることから、工夫をこらした活動が期待されている。

動物資源省 (1月13日9:30~10:45)

今回の要請：家畜飼育、視聴覚教育

(1) 概要：1年前に設置され、農業省から独立した省。6局（調査計画、普及、技術開発、畜産、牧地整備、獣医）からなる。州（12）、郡（45）に支局がある。畜産にかかる新しい技術を開発し、牧畜業者に移転する。

1 動物資源省普及局

「家畜飼育」に関しては、地方の普及員の統括をするという内容であったことから、調査団から専門家レベルの内容であること、隊員の場合は実際の現場を持つことが望ましいことを助言

し、要請取下げとした。

「視聴覚教育」に関しては、普及のための教材の制作、ビデオの編集を期待するということであったが、現場を視察したところ、機材がほとんど故障していたこと、c/pは畜産専門のため、実質修理屋になりかねないことから要請取下げとした。

女性地位向上省（1月14日11：00～12：30）

今後見込まれる要請：家政

（1）概要：97年に設立された最も新しい省（以前は社会活動省の管轄）

5部（総務、調査、活動促進、人権擁護、コミュニケーション）

（2）活動：全人口の53%を占める女性の社会経済地位の向上を促す。他の省の活動において女性が守られているか助言し、調整する。省管轄の普及員はいない。女性の家は国のものはまだないが、外国との姉妹都市協定の一環で設立されたものが数箇所あり、手芸、家事の指導を行っている。

（3）要請：現在未提出だが、調査団から「家政」「手工芸」の活動例を紹介したところ、興味を示した。任期が短いこと、村人が外国人を警戒することに対して懸念を表明していた。省が新しく、実働部隊がまだ実質的にはないため、調査団としては現段階での隊員派遣は困難と判断したが、将来的には「女性の家」での派遣が考えられる。

法務省（1月14日（木）17：00～17：45）

今後見込まれる要請：溶接、木工、家政、野菜

（1）概要：刑務所内の社会復帰センターは全国に2箇所ある。センターでは13～18歳の未成年者を対象に職業訓練を行っている。刑務所は全国に11箇所あり、ワガドッグの場合通常25名位（内女性10%）収容されている。未成年者の犯罪の多くは窃盗などの軽犯罪で、6ヵ月～2年間で釈放される。

（2）活動：センター内にはアトリエがあり、木工、溶接を指導、また保護された畑で野菜づくりなどを指導している。

（3）要請：アトリエの指導者は刑務官で素人であるため、「木工」「金属加工」、「野菜」の隊員を希望したい旨発言があった。加えて、刑務所内の「医師」「看護婦」も現在は外からの巡回医のみのため、希望するとのことであった。調査団から、上記職種は「医師」以外可能であることを述べた上で、女性の職業訓練のため「家政隊員」による手芸、栄養指導などを提案した。興味を示したが、機材が一切ないこと、また短期間（1年）で習得できるものである必要があることがコメントされた。隊員の活動の場としては、対象者、目的が明確であることから、興味深い要請になると思われる。調整員派遣後に現地調査を行い、継続協議することとした。

雇用労働社会保障省（1月15日（金）9：40～10：30）

今回の要請：電子機器

（1）概要：職人を育てることを目的に、国立職業専門校がある。地方に5箇所の支局（訓練校）がある。卒業資格はなく（証明書のみ）、期間は様々で1科目最長1年間である。特に、機械の修理をできる電子機器分野の人材の育成を図りたい。

1 職業訓練センター（1月15日11：30～12：30）

今回の要請：電子機器

（1）概要：59年に設立されたが、機械科が設立されたのは89年。全校で先生30名、内機械科は3名。生徒は中学卒業、18歳以上というのが条件であり、上限は無制限である。授業料は年間200,000CFAである。大部分の先生は、専門短期大学卒業後、2～3ヵ月の実習を行い教諭となる。

（2）要請：電気機器の理論は3名の講師が教えており、教材も一通りある。実習用の機械、タイプライター、コピー機、コンピューターなどを通して、少しでも応用の効く修理技術の実習を担当して欲しいとのことであった。現在生徒は15名だが、希望者は100人位いる。新しい科のため、将来的に拡張することを考えており、隊員は1講師として授業を担当することとなる。

4-2 他国援助機関の動向

AFVP (1月11日 16:00~17:00)

- (1) 活動開始：1974年
- (2) 活動人数：28名のフランス人(内43%女性)、65名のブルキナファソ人。年齢は23~35才
- (3) 任地は100%地方展開(任地はほとんどがフランスの姉妹都市。ブルキナファソ全国で35の姉妹都市あり。)
- (4) 事務所スタッフ：フランス人3名、現地職員1名(現地訓練担当1名、技術顧問3名、事務担当1名)
- (5) 重点分野：
 - ①村落開発(66%)：医療、水、農業、畜産等のプロジェクトにおいて、地域をまとめ、地域振興を図る。
 - ②社会開発：基礎教育(広義)、WID
教育費を払えない、あるいは親がいないため学校に来れない子供を対象とした識字教育、トラック運転手に対するAIDSの啓蒙活動、CLAIRE LOGI(財源：フランスカトリック協会)が運営するセンターで女性の地位向上のための活動等
 - ③農業開発：5ヶ村で野菜生産を中心としたパイロット農業を実施している。
- (6) 活動展開の特徴：上記優先分野で12のグループがそれぞれのプロジェクトを実施している。事務所に3名のコーディネーターが常駐(ボランティア経験者)し、適宜技術的助言を行う制度をとっている。
- (7) 現地訓練：1.5ヶ月(任国に赴任する前に本国で9日間の研修(アフリカと任国の歴史、文化)を受けて来る。)プロジェクト毎の講義(8日間)、ホームステイ(任地外)(3日間)、現地語(4~5種類から選択)
(講師は主にワガドゥグ大学から)
- (8) 海外手当：300,000~310,000CFA
- (9) 治安対策：全く問題ない(アフリカの中で最も良い国の一つ)
(フランス大使館が各地域に連絡係を配置しているので、適宜連絡をとるようにしているのみで、無線/電話による定期連絡網などはない)
- (10) 医療対策：マラリア対策として蚊屋の使用、クロロキンの服用を指導
(過去に1回のみ緊急移送あり)

UNDP (1月12日 9:00~10:20)

(1) UNV活動状況：34名

International 22名 (内1名日本人：瀬戸進一セネガルOB)、National 12名

(2) 活動分野：

- ①農業生産の向上 (食糧自給向上)
- ②婦人・青年活動活性化による地方開発
- ③環境保全
- ④社会開発 (人材育成)

(3) JOCVとの関係の可能性：本年2月から新規のプログラム (青年活動活性化促進による農業生産力の向上) を計画しているが、JOCVとのリンケージを歓迎する旨発言があった。

米国和部隊 (1月12日 14:00~15:15)

(1) 派遣開始：67年、87年中断、94年再開

(2) 活動人数：80名、累積1000人以上

(3) 重点分野：保健医療、教育

①医療 (42人)：パマコ・イニシアティブを受けて地域医療を展開。地方診療所 (Centre Promotion de la Sante) の運営、及び保健教育を担当。ボランティアは医療従事者ではないが、C/Pが看護婦。

②教育：英語、理数科の教師。大部分が高校で教えているが、大学、父兄協会で活動をしているボランティアもいる。

(今後、農業分野の展開を考えている。)

(4) 100%地方展開で、任地の多くは西部 (「ブ」国のニーズが多い地方だったため。)

(5) 現地訓練：12週間。フランス語、現地語 (任地別)、技術訓練、異文化理解期間中2人づつホームステイ。講師は従来は中学高校の先生と個別契約、今年度から訓練を委託契約。

(6) 海外手当：200ドル/月、着後手当：400ドル (1回のみ)、上京旅費：10,000CFA/月

(7) 事務所スタッフ：10人 (米国人3人、7名ブルキナ人)、内2名看護婦

(8) 治安：問題ない。緊急時の避難先、連絡先を決めている。無線や電話による定期連絡網はない。隊員は通常tele-centerを利用。事務所からは配属先 (地域の保健センター、学校等) に電話し、呼び出してもらう。

(9) 移動手段：モビレットを貸与しており、赴任時にトレーニングを実施している。

(10) 隊員のかかえる問題：カウンターパートのモチベーションが低いこと。

(11) 活動支援経費：財政的に支援する際は、先方コミュニティーに必ず25%負担させる。基本的には隊員のプロポーザルを事務所が審査する小規模なものと、US AIDが審査するプロジェクト (\$300~\$8,000) の2種類がある。

ブルキナ・ファソ政府

大統領	: Président	: Blaise COMPAORÉ
首相	: Premier ministre	: Kadré Désiré OUÉDRAOGO
国務大臣*農業大臣	: Ministre d'Etat, ministre de l'Agriculture	: Bongnessan Arsène YÉ*
国務大臣 環境水大臣	: Ministre d'Etat, ministre de l'Environnement et de l'Eau	: Salif DIALLO
国務大臣*外務大臣	: Ministre d'Etat, ministre des Affaires étrangères	: Youssouf OUÉDRAOGO*
経済大蔵大臣、スポークスマン	: Ministre de l'Economie et des finances, porte-parole du gouvernement	: Tertius ZONGO
防衛大臣	: Ministre de la Défence	: Albert Dé Millogo
法務大臣	: Ministre de la Justice, garde des Sceaux	: Paul KIENDÉ
国土行政安全保障大臣	: Ministre de l'Administration territoriale et de la sécurité	: Yéro BOLY
大統領府担当大臣**	: Ministre chargé de Mission à la présidence du Faso	: Pierre TAPSOBA*
商工業手工芸大臣	: Ministre du Commerce, de l'industrie et de l'artisanat	: Idrissa ZAMPALÉGRÉ
エネルギー鉱山大臣	: Ministre de l'Energie et des mines	: Elie OUÉDRAOGO
中高等教育科学研究大臣	: Ministre des Enseignements secondaire, supérieur et de la recherche scientifique	: Christophe DABIRÉ
基礎教育識字大臣	: Ministre de l'Enseignement de base et de l'alphabétisation	: Banworo Seydou SANOU
社会基盤住居都市大臣	: Ministre des Infrastructures, de l'habitat et de l'urbanisme	: Joseph KABORÉ
公務員機構開発大臣	: Ministre de la Fonction publique et du développement institutionnel	: Paramanga Ernest YONLI*
雇用労働社会保障大臣	: Ministre de l'Emploi, du travail et de la sécurité sociale	: Elie SARRÉ
地域統合大臣	: Ministre de l'Intégration régionale	: Bernadete SANOU (Mrs)
国会連絡担当大臣	: Ministre chargé des relation avec le parlement	: Cyril GOUNGOUNGA
通信文化大臣	: Ministre de la Communication et de la culture	: Mahamoudou OUÉDRAOGO
保健大臣	: Ministre de la Santé	: Alain Ludovic Tou
青年スポーツ大臣	: Ministre de la Jeunesse et des sports	: Joseph André TIENDRÉBÉOGO
運輸観光大臣	: Ministre des Transports et du tourisme	: Bedouma Alain YODA
社会活動家族大臣	: Ministre de l'Action sociale et de la famille	: Bana OUANDAOGO (Mrs)
動物資源大臣	: Ministre des Ressources animales	: Alassane SÉRÉ
女性地位向上大臣	: Ministre de la Promotion de la femme	: Alice TIENDRÉBÉOGO (Mrs)
環境水省 水担当大臣	: Ministre délégué auprès du ministre de l'Environnement et de l'Eau, chargé de l'Eau	: Soma BARRO
経済大蔵省 予算担当大臣	: Chargé du Budget	: Hamidou WIBGHO***
経済大蔵省 経済開発担当大臣*	: Chargé du développement économique	: Kader CISSÉ*
国土行政安全保障相 安全保障担当*	: Chargé de la sécurité	: Djibril Yipènè BASSOLÉ*
社会基盤住居都市省 住居都市担当大臣	: Chargé de l'habitat et de l'urbanisme	: Issaiaka I. DRABO
雇用労働社会保障省 雇用促進担当大臣	: Chargé de la Promotion de l'emploi	: Emile KABORÉ
エネルギー事務局長*	: Secrétaire d'Etat à l'Energie	: Sadaré Etienne OUÉDRAOGO*
電気通信事務局長*	: Secrétaire d'Etat aux Télécommunications	: Justin Tiéba THOMBIANO*
青年事務局長*	: Secrétaire d'Etat à la Jeunesse	: Dieudonné Maric COMPAORÉ*

* 新設ポスト、新規大臣 農業相、外務相は国務大臣に格上げ

** 大統領府担当相は国務大臣から格下げ

*** 前財政担当大臣 (chargé du Finance)

出典：1999年1月15日地元紙 "LE PAYS"

4-3 事務所関連 (主に外務省、他援助機関、日本人専門家からのヒアリング)

(1) 事務所物件

事務所物件探しの方法としては、①外務省にあらかじめ条件を伝え、いくつか候補物件を上げてもらおう方法 ②地元不動産業者を通じて探す ③新聞の広告欄に掲示する ④外国人が出入するスーパーマーケットや喫茶店に広告を出すなどの方法がある。①の場合、市近郊に政府が開発した新興住宅地があり、外務省がその中からいくつか紹介出来るとの話であった。一般的な相場としては、一戸建(7~8室)で約60万~90万CFA(約12万円~18万円) / 月(井上専門家)。また一番見つけやすい時期としては、6月から9月までのバカンスシーズンで、この時期外国人の人事異動が多くあり、空き部屋が出るとのこと。

(2) 現地傭人雇用等

現地傭人としては、ニジェールの例のように、一人高級クラークとしてブ国政府より出向者を雇うことが望ましいと思われる。この点を外務省に確認したところ、我が方より事前に条件を出せば、しかるべき人物を何人か紹介できるとの話であった。給与としては、先方の現職の給与と我が方の給与表を比較検討して決定する必要がある。なお外務省より公務員の給与表を入手したので参考とできる。この他のリクルート先としては、銀行からのスカウトなどが考えられる。

(3) 現地語学訓練

語学訓練先としては、事務所の一室を教室として使用するケースと、外部の施設を利用するケースがあると思われるが、発足当初は派遣人数も少ないことから、事務所の一室を教室のようにして使用する方法で対応すればよいと思われる。ピースコー、AFVPの情報によると、講師はワガドゥグ大学及びワガドゥグ市内の中高等学校で探すことが可能と思われる。

(4) 調整員の住宅

(1)と同じ方法で探すことが出来る他、事務所より少し小さめの物件となることから、値段も45万~70万CFA(約9万~14万円) / 月程度で探すことが出来るだろうと思われる。

4-4 生活環境

(協力隊派遣事前調査報告書(平成9年8月)及び専門家派遣要請背景調査報告書(平成8年12月)から抜粋)

(1) 市内交通事情

公共交通機関として路線バス(5路線)、乗合タクシーがあるが、市民の足は、圧倒的にモビレットおよび小型バイク(カブ)である(市内幹線道路脇にはバイク専用道路まである)。朝・夕の通勤時および昼食時は、バイクが道路を占拠した状態で、車両乗車時は、引っかけはしないかとビクビクしながらの走行であった。ラッシュ時は、騒音と排気ガスで息苦しい程である。男女、また地位の上下に関わらずバイクを利用している者が多い。

(2) 医療事情

医療機関：信頼のおける機関は限定される。仏大使館の医療センターは名目上は仏人限定となっているが、個別対応で日本人も診療している。また、ドイツ大使館が最近始めた German Medical Centerはインタビューした多くの人からレコメンドされた。「ドイツ大使館付属医療センター」の開院は1996年8月1日。医療スタッフは熱帯病専門医、一般医各1名およびパラメディカルスタッフ。本医療センターは、一義的にはドイツ国民を対象としている。しかしながら、現在約10の大使館と取り決めを結び、その利用に供している。実際には、取り決めがなくとも利用は可能であるが、将来、受診者数が増えれば、取り決めが必要となる可能性もある。なお、取り決めを締結している大使館は、65万FCFAの施設利用費を負担している。個人で登録する場合、一人15,000FCFA、夫婦の場合30,000FCFA、子供がいる家族の場合(何人でも)45,000FCFAの登録料が必要である。受診可能な治療は一般的な診察及び軽微な手術など。なお、在ワガドゥグ外国人の多くは緊急時の手術は内容に応じアビジャン、もしくはパリに緊急移送(Europ Assistance)しているケースもある。

予防接種：

- 入国に必要：黄熱病
- 接種が強く勧められるもの：脳髄膜炎、破傷風、A型及びB型肝炎、ディフテリア
- 必要に応じて：ポリオ、結核

マラリア予防対策：

今回インタビューした援助関係外国人の多くはニヴァキン/パリュドリン併用をしている者が多く、メフロキンや新薬のラリアムを常用している者は少ないようである。なお、ワガドゥグでは蚊取線香、ベープマットは購入可能。

物価調査 (隊員月額生活費)

1US\$ = 570.15 CFA

支出項目	品目	数量・単位	単価 (現地通貨)	計 (現地通貨)	US \$ 額	備考 (補足説明等)
被服費	運動靴	1足/12月	12,000	1,000	1.75	
	下着 (シャツ、パンツ) 一式	一式/6月	2,000	333	0.58	
	Yシャツ (通勤用)	1枚/6月	5,000	833	1.46	
	ブラウス (通勤用)	1枚/6月	4,000	667	1.17	
	Tシャツ	1枚/6月	2,000	333	0.58	
	ズボン又はスカート (通勤用)	1着/24月	5,500	229	0.40	
	ジーンズ	1着/24月	6,000	250	0.44	
	防寒着 (オーバーコート類)	1着/24月	20,000	833	1.46	
	防寒着 (セーター)	1着/24月	10,000	417	0.73	
	雨具 (雨合羽)	1着/24月	6,000	250	0.44	
	その他の衣類					
食費	自炊	1ヶ月	20,000	20,000	35.08	
	外食 (現地食)	30回/月	500	15,000	26.31	
	下宿支払い					
光熱費	電気代 (月当たり使用量)		20,000	20,000	35.08	
	水道代 ()		9,000	9,000	15.79	
	ガス代 ()		7,000	7,000	12.28	
	灯油代 ()					
日用品	石鹸	1個/月	400	400	0.70	
	シャンプー (250 ml)	1本	2,500	2,500	4.38	
	歯磨粉 (g)	1本/月	750	750	1.32	
	トイレトペーパー	4巻/月	300	1,200	2.10	
	洗濯洗剤 (kg, l)	1箱 (本) /月	2,000	2,000	3.51	
	その他の日用雑貨 (消耗品)					
	食器 (大皿、小皿、スプーン、フォーク、コップ、カップ等)	一式/12月	30,000	2,500	4.38	
	シーツ	1枚/12月	5,000	417	0.73	
	ブランケット	枚/24月	7,000	292	0.51	
	毛布	枚/24月	20,000	833	1.46	
嗜好品	コーヒー (200g程度)	1瓶	5,000	5,000	8.77	
	清涼飲料水 (コーラ等)	30本/月	175	5,250	9.21	
	ミネラルウォーター (1.5 l)	10本/月	400	4,000	7.02	
交通費	バス代 (市内料金)	15回/月	100	1,500	2.63	
	タクシー代 (市内料金)	15回/月	150	2,250	3.95	
	ガソリン (単車貸与者)	20L/月	400	8,000	14.03	
通信費	国際郵便	5回/月	590	2,950	5.17	
	国内郵便	4回/月	150	600	1.05	
	国際電話	10分/月	2,400	24,000	42.09	
	国内電話	5分/4回/月	300	6,000	10.52	
交際費	冠婚葬祭等	1回/月	3,000	3,000	5.26	
教養費	新聞	30部/月	150	4,500	7.89	
	週刊誌	2部/月	2,000	4,000	7.02	
	語学学習費 (書籍)	1冊/2月	5,000	2,500	4.38	
備人費 その他	警備員	1名/月	50,000	50,000	87.70	
	散髪 (パーマ代含む)	1回/3月	10,000	3,333	5.85	
	映画	1回/月	500	500	0.88	
	文房具	1回/月	350	350	0.61	
	国内小旅行	1回/6月	30,000	5,000	8.77	
	フィルム (24枚撮)	1本/2月	1,500	750	1.32	
	現像代 (24枚撮)	1回/2月	4,100	2,050	3.60	
	銀行引出し手数料	1回400\$引出	0	0	0.00	
	備蓄用食料・飲料水	1週間分/12月	60,000	5,000	8.77	
						399.14

JICA